

平成 30 年度
鳥取大学男女共同参画推進室 活動報告



目 次

1. 基本理念	2
2. 学内環境整備の取り組み	2
3. 実施体制	3
4. 室員名簿	3
5. ミーティング	3
6. 平成30年度の取り組み	4
7. 事業実施状況	5
(1) 研究活動支援	5
(2) ライフイベントとの両立支援	7
(3) キャリアデザイン支援	14
(4) 意識啓発活動など	32
(5) その他	36
8. ニュースレター	38

1. 基本理念

鳥取大学は

- 世のため人のために頑張ろうと志す人の気持ちをくじくことなく、前向きに進んで行こうとする人を応援する職場・勉学環境
- 既婚、独身、同居、別居に関わらず家族を大切にし、健全な家庭を育んでいける職場・勉学環境を形成していくことを目指します。

行動計画

- ・ライフイベントとの両立支援
ライフイベントと研究および職務を両立するための支援・情報提供および環境整備に取り組み、また相談活動を行います。
- ・キャリアデザイン支援
企業見学会や女性研究者・技術者との交流会、ロールモデルとの交流会などを開催し、キャリアデザイン支援を行います。
- ・啓発活動等
男女共同参画についての理解と認識を深め、学内の意識改革を進めるため、セミナーや講演会等を開催します。

2. 学内環境整備の取り組み

■ 研究活動支援

1. 研究支援員制度

技術補佐員、リサーチアシスタント、アルバイト等を雇用し、研究支援員として子育てや介護等のライフイベントにより、研究活動における支援を必要としている女性研究者および女性研究者をパートナーとする男性研究者に配置する。

■ 女子学生のライフキャリアデザイン支援

1. 女子学生・大学院生による企業見学会

女子学生・大学院生を対象とした、企業を含む研究・開発・試験機関等の見学および女性研究者・技術者との交流会を行う。

2. メンターカフェ

女性研究者・技術者をロールモデルとして迎え、女子学生・大学院生との交流会を開催する。

■ ライフイベントとの両立支援

1. 子育て・介護に役立つ情報提供

本学における育児・介護に関わる制度に関する情報、地域自治体(鳥取市・米子市)の子育てや介護支援サービスに関する情報を、ホームページ、印刷物、説明会により提供する。

2. 相談活動

女性研究者、女子学生・大学院生を対象とする相談活動を行う。また、相談員育成のために、教職員を対象とするコミュニケーション研修会を開催する。

■ 啓発活動等

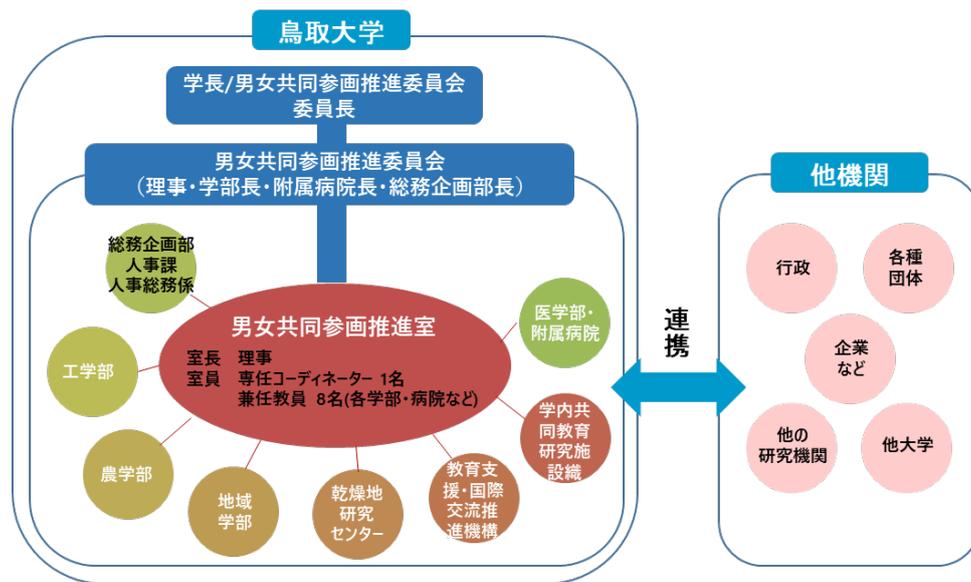
講演会・セミナー

男女共同参画についての理解と認識を深め、学内の意識改革を進めるために、管理職を対象としたトップセミナー、教職員や学生・大学院生を対象としたシンポジウム、講演会、セミナー等を開催する。

その他

講演会等各種イベントのご案内の他、仕事とライフイベントの両立に役立つ情報を発信する。

3. 実施体制



4. 室員名簿

室長	理事	細井 由彦
専任コーディネーター	男女共同参画推進室 コーディネーター	長谷 順子
兼任教員	地域学部 准教授	畑 千鶴乃
兼任教員	工学研究科 教授	岩井 儀雄
兼任教員	工学研究科 准教授	浅井 秀子
兼任教員	農学部 教授	竹内 崇師
兼任教員	乾燥地研究センター 准教授	安 萍
兼任教員	大学教育支援機構 教育センター 助教	滝波 稚子
兼任教員(11月末まで)	医学部附属病院 准教授	谷口 美也子
兼任教員	医学部附属病院 准教授	山田 七子

5. ミーティング

平成30年度男女共同参画推進室ミーティングを計5回開催し、事業内容の検討および実施を行った。

- 第1回 4月25日 13時15分～
- 第2回 6月18日 10時30分～
- 第3回 8月 3日 10時30分～
- 第4回 11月12日 15時00分～
- 第5回 1月31日 15時00分～

6. 平成30年度の取り組み

- 4月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第23号発行
- 6月 1日 『女子学生のための企業見学会（県内版）』開催
株式会社明治製作所および大江ノ郷自然牧場有限会社ひよこカンパニー 訪問
- 6月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第24号発行
- 6月21日 FD研修 ダイバーシティセミナー『LGBTとは トランスジェンダーの学生への支援
について』開催
- 8月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第24号発行
- 8月10日
～24日 夏季学童保育『とりりんサマースクール』開催
- 9月18日 英語論文セミナー『論文執筆のための技術英語』開催：米子地区
- 9月19日 英語論文セミナー『論文執筆のための技術英語』開催：鳥取地区
- 9月26日
～27日 『女子学生のための企業見学会（関西版）』開催
小野薬品工業株式会社および富士通株式会社 訪問
- 10月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第26号発行
- 11月19日 第7回中国・四国男女共同参画推進連携会議および
第10回中四国男女共同参画シンポジウム 参加：愛媛大学
- 12月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第27号発行
- 12月17日 働き方改革セミナー『事例で学ぶ治療と仕事の両立支援』受講：大阪市
- 12月21日 全国ダイバーシティネットワーク組織 第1回中国・四国ブロック会議：広島市
- 1月15日
～2月8日 『不妊治療に関するアンケート調査』実施
- 1月17日 『看護師による個別相談』実施
- 2月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第28号発行
- 2月 7日 全国ダイバーシティネットワーク組織 大阪大学シンポジウム 参加：大阪大学
- 2月12日 平成31年度（第10期）研究支援員制度利用者 募集開始
- 2月18日 介護セミナー『仕事と介護の両立のために』開催：鳥取地区
- 2月19日 介護セミナー『仕事と介護の両立のために』開催：米子地区
- 2月23日 『大学におけるLGBTQ+支援』フォーラム 参加：福岡市
- 3月12日 『ダイバーシティマネジメント&無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）』セミナー
受講：東京都

7. 事業実施状況

(1) 研究活動支援

○研究支援員制度

ライフイベントのために研究時間が十分にとれない研究者に対して研究支援員を配置し、研究活動に対する支援を行った。平成30年度第9期は、女性研究者5名、男性研究者1名の計6名に研究支援員の配置を承認した。

研究支援員配置を承認した研究者

	人数	内訳		理由	
		女性	男性	育児	介護他
平成30年度	6	5	1	6	0

<研究支援員制度利用者の声> (抜粋)

- ◆ 研究に関わる事務的な仕事を全て支援してもらい、物理的な作業等に関わる時間が大幅に減ったことで、学内の教育と並行しながらも、何とか、研究を遂行することができた。
研究支援員の活用がない場合、休日や時間外、持ち帰りで作業をしなければ終わられなかったと想定されるので、その場合、研究がほぼ遂行できなかったか、子育て等、家庭での時間を犠牲にして、行わなければならなかったと考えるので、大変助かった。
- ◆ 支援員の配置により、仕事と家庭生活の両立ができ、今年度は特に自身の体調不良、子どもたちの体調不良も少なく、療養や看病による休暇取得も減り、精神的に仕事ができたと実感している。
- ◆ 自分で全てを抱え込むことなく、報酬が発生することにより、仕事を依頼しやすくなり、時間を効率的に使うことができた。
- ◆ 週末に自宅に帰る際に仕事を持ち帰らずに済んだので、育児に専念することができた。今回の育児支援制度により、男女の社会参加が可能となっていることを実感する。
- ◆ 研究支援員の配置により、子供の体調などによって急に早退したり休んだりした時に、実験材料や成果を無駄にすることがなく、研究支援員の手助けによりサンプルの調整や保存、研究結果を写真データとして残すなどの対応をしてもらえ、効率的に研究活動を行うことができた。
- ◆ 研究支援員による研究補助を受けることによって、研究業績を向上することができ、今後の研究費獲得に役立つことが期待できる。
- ◆ 研究支援員による支援を行うことにより、時間的に少し余裕を持てるようになった。そのため、早めに子供を保育園に迎えにいけるようになり、家庭でゆとりを持って過ごすことができるようになった。育児と仕事（特に研究活動）とのワークライフバランスが取れていない事による焦りやストレスが軽減され、前向きに育児や仕事に取り組めるようになったと感じている。
- ◆ 実験および関連業務を安心して任せられたので、精神的な支えにもなってくれたと感謝している。
- ◆ 育休復帰直後に比べれば随分と育児が楽になった一方で業務は年々増え、また博士課程の学生を受け持っているという大きなプレッシャーもあり、家庭と仕事の両立が精神的に厳しい時が多い。そんな中でも、支援員のサポートのおかげで保育園での面接や急な呼び出しなど、育児のために仕事を中

断することができた。

- ◆ 支援員によるサポートは、精神的・体力的なゆとりの確保は勿論の事、子供と過ごす時間の質と仕事（研究）へのモチベーションの向上に大きく影響したと感謝している。
- ◆ 研究支援員がデータの打ち込み、データ解析等、学会発表の準備の補助等をおこなってくれたため、学会発表がスムーズにおこなうことができた。特にデータの打ち込みとデータ解析については時間を割かれる部分なので、非常に助かった。
- ◆ 家庭に帰ってからの時間を家族のために使うことができたこともメリットであったと考えている。

(2) ライフイベントとの両立支援

○学童保育『とりりんサマースクール』の実施

教職員のワークライフバランス改善を目的に、平成27年度より夏季学童保育『とりりんサマースクール』を実施。昨年度場所の確保ができず中止したが、あらためて一昨年度のアンケート結果等を踏まえて見直しを行い、8月に学童保育を実施した。

見直し点は、毎日同じリズムで生活できるよう、勉強時間、遊びの時間、プログラム参加の時間を毎日同じ時間に設け、指導員は小中学校の教員経験者をお願いした。

8/10(金)
↓
8/24(金)
8:00~17:00
(延長18:00まで)

とりりん サマースクール2018

~参加者募集~

夏休み、大学で過ごしませんか？ モノづくりや実験、バスに乗ってのツアーなど楽しく学べるプログラムを用意しています。
宿題もみんなてやれば頑張れるよ！

対象：小学1~6年生
定員：20名
料金：800円(税別)/日

8月10日(金)~24日(金)(土日、および夏期一斉休業日8/13~15を除く。)

日替わりのプログラム

- 8/10(金) ダンボールハウスを作ろう 工学研究科 渡井先生
- 8/16(木) おたのしみ 地域学部 住川先生
- 8/17(金) 化学じっけん教室 米子高専 谷藤先生
- 8/20(月) おたのしみ 技術部
- 8/21(火) 鳥取博物館 ツアー
- 8/22(水) おたのしみ/おたのしみを作ろう 農学部 山口先生
- 8/23(木) 砂丘乾燥地研 ツアー
- 8/24(金) 鳥取大学 たんけんツアー

申込方法
男女共同参画推進室のHPより参加申込書をダウンロードし必要事項を記入、必ずQ&Aをご一読の上、7月6日(金)17時までに、男女共同参画推進室までお申し込みください。
尚、説明会を7月24日に開催しますので、必ずご参加ください。

主催、問い合わせ先：男女共同参画推進室
TEL 0857-31-5769
FAX 0857-31-5797
danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp
www.sankaku.tottori-u.ac.jp

【開設期間】 平成30年8月10日～8月24日（土日および13日～15日を除く8日間）

※大学の試験期間終了後、学内の夏季休暇中に実施

【保育の拠点】 湖山クラブ ロビー、和室

【保育の対象】 本学教職員（週20時間以上勤務）の児童（小学1年生～6年生）で、日中に保育できない家庭

【保育体制】 ①指導員 5名

1) シルバー人材センターより小・中学校教員免許保持者の派遣 3名

2) ファミリーサポートセンターより紹介（有期契約職員） 2名

②学生サポーター（アルバイト雇用） 5名（1日3名のシフト制）

※男女共同参画推進室の室員（細井・長谷）が、拠点の開錠・施錠および、プログラム開催時の対応等を行った。

【保護者負担】 児童1人あたり 1日800円（体験プログラム諸費用、おやつ代含む）

※原則「800円×入所決定日数」を保育料として負担

【参加児童数】 16人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
男	1	0	1	2	2	0	
女	2	3	0	2	2	1	
計	3	3	1	4	4	1	16

(人)

※参加児童の小学校については次のとおり。

附属4人、湖山3人、久松2人、世紀・美保・城北・岩倉・郡家西・鹿野・智頭各1人

【体験プログラム】

8/10 開校式

ダンボールハウスを作ろう（浅井先生：工）



8/16 はんこを作ろう (住川先生：地域)



8/17 科学じっけん教室 (谷藤先生：米子高専)



8/20 おもしろ実験室 (技術部)



8/21 鳥取博物館ツアー



8/22 ポン菓子/ポップコーンを作ろう (山口先生：農)



8/23 砂丘乾燥地研ツアー (乾燥地研)



8/24 鳥取大学たんけんツアー (細井理事)

閉校式



学食での昼食風景

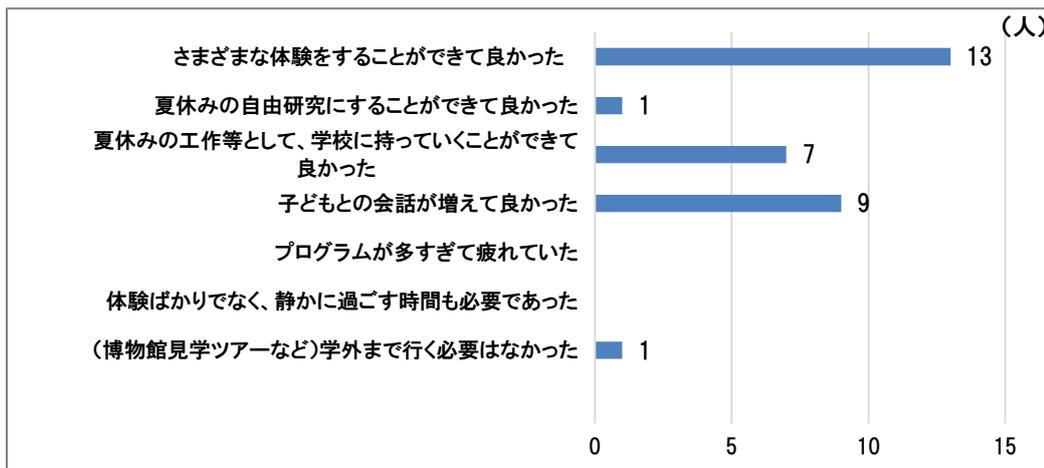


【アンケート結果：保護者（教職員）】 回答率100%

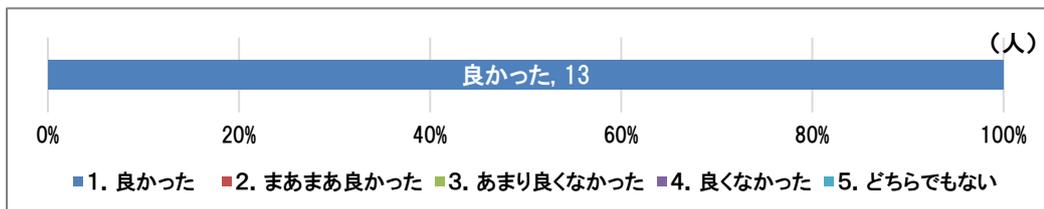
Q: とりりんサマースクールに参加させて良かったと思いますか



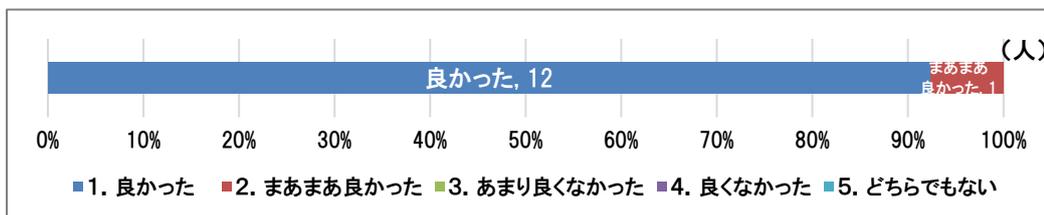
Q: 今年度は、体験プログラムの内容を充実させ、毎日替わりで実施しました
これについて、該当するもの全てを選択してください



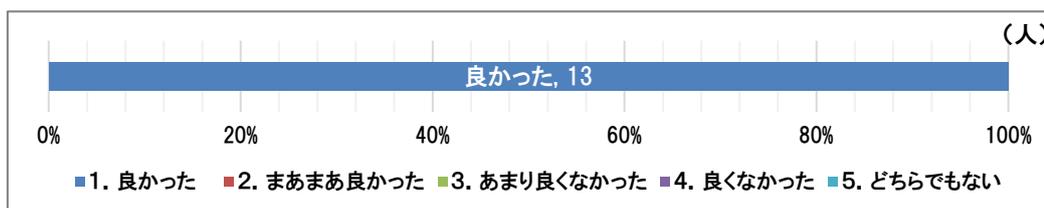
Q: 主の指導員として、元教員の方をお願いしましたが、いかがでしたか。



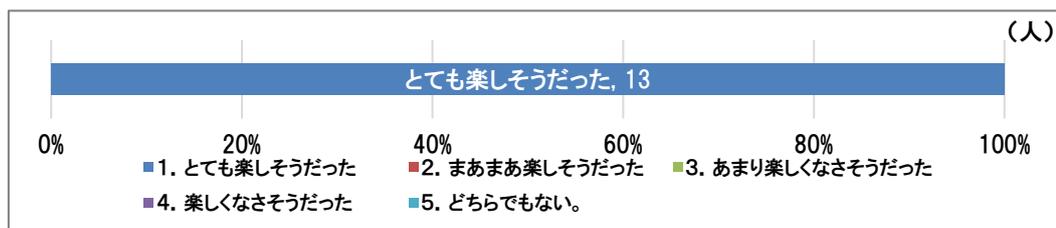
Q: サブの指導員として、ファミリーサポートセンターより育児サポーターの方をお願いしましたが、いかがでしたか。



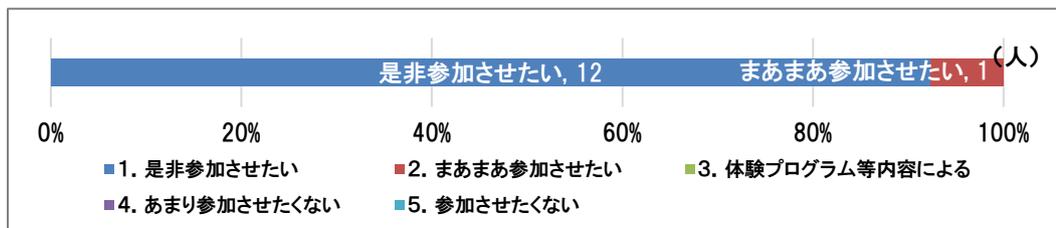
Q: <学習について>今年度は、指導員に元教員の方をお願いし、学習時間を確保しましたが、いかがでしたか。



Q: とりりんサマースクール2018期間中のお子さんの様子はいかがでしたか



Q: 来年実施する場合、また参加させたいと思いますか



○英語論文セミナー

9月18日に米子地区、翌9月19日に鳥取地区において、毎年開催し好評の中山裕木子氏による「論文執筆のための技術英語」を開催した。本年度は、鳥取地区にて工学系、生物・化学系の2分野、米子地区では、初級と中級に分けて実施した。

案内チラシ



英語論文セミナー
論文執筆のための技術英語
受講者募集!

毎年好評いただいている中山裕木子先生による英語論文セミナーを開催します。今年度は、米子地区は難易度別クラス、鳥取地区は分野別クラスにて行います。希望されるクラスに申込みください。

<米子地区>
日時：平成30年9月18日（火）
●第1部 初級 15:30～17:00
●第2部 中級 17:15～18:45
会場：第2中央診療棟 2階 会議室5

<鳥取地区>
日時：平成30年9月19日（水）
●第1部 工学系 13:00～14:30
●第2部 生物・化学系 14:45～16:15
会場：広報センター スペースF

講師紹介 中山裕木子氏 株式会社ユー・イングリッシュ 代表取締役
公益社団法人日本工業英語協会 専任講師

工業英検1級取得。文部科学大臣賞を受賞。公益社団法人日本工業英語協会の専任講師に就任し、大学や専門学校などの教育機関や企業で理工系研究者を対象とした技術英語、特許英語を数多く指導。

著書『技術系英文ライティング教本』
『会話もメールも英語は3冊で伝わります』

① テキスト準備のため事前申込みをお願いします。
定員に達したときは締め切れる場合がありますのでご了承ください。

主催・申込・お問い合わせ先：男女共同参画推進室
電話：内線2166、米子からは14-2166
メール：daniyo@adm.tottori-u.ac.jp

HP掲載



英語論文セミナーを開催しました！

セミナー 2018.10.03

9月18日（火）に米子地区、翌19日（水）に鳥取地区において、講師に株式会社ユー・イングリッシュの中山裕木子先生をお迎えし、論文執筆のための技術英語を学ぶ英語論文セミナーを開催しました。本年度、米子地区では初級・中級の難易度別クラス、鳥取地区では工学系、生物・化学系の分野別クラスで行いました。

セミナーでは3つのC（Correct<正確>・Clear<明確>・Concise<簡潔>）をポイントに文章を作成すること、動詞の強化のしかたや動詞をぼやかす（確定ではない）方法を“Nature”の掲載論文を参考に説明いただきました。

中山先生によるセミナーは今年で3年目となりますが、過去開催時の評判を聞いて受講される方もあるほどで、「わかりやすかった」「まあまあわかりやすかった」と受講者全員の方がこたえています。

受講者からは、「難しいことを話されているのにとてもクリアだった。ポイントがブレずによく分かった。」「とても勉強になりました。自分のクセがわかりました。動詞選びの重要性を認識しました。」「具体的な改善点を知ることができた」との感想が寄せられました。

 <米子地区の様子>

 <鳥取地区の様子>

(3) キャリアデザイン支援

○女子学生の企業見学会＜県内企業＞

昨年度に引き続き、本学の創学記念日である6月1日を利用し、企業見学会の県内企業版を実施。鳥取県の雇用促進課と女性活躍推進課、地（知）の拠点大学による地方創生推進室、キャリアセンターに協力いただき実施した。

今年度は、“女性が活躍している企業を見学しよう！”と、本学の卒業生が活躍している倉吉市で自動車・単車部品の熱間精密鍛造品を製造する株式会社明治製作所と、八頭町で鳥取の大自然から新しい暮らしを提案する大江ノ郷自然牧場有限会社ひよこカンパニーを訪問。工学部、農学部3年生を中心に、15名の参加があり、今後インターンシップや就職活動を行うにあたり、“働く”とはどんなことかを現場で直接見、知ることができた。

案内チラシ

女性が活躍している企業を見学しよう！
どんな仕事があるのかな、女性社員と
交流できるよ！

参加無料
※昼食のみ自己負担

女子学生のための 企業見学会2018

＜鳥取県内版＞

2018.6.1 Fri.

※開学記念日で授業はありません

対象は、本学の女子学生・女子大学院生（分野学年は問いません）で、事前説明会に参加可能な方。

※事前説明会は、5月22日(火)昼休みを予定。
※米子地区からの参加希望者には別途説明を実施。
※移動は貸切バスです。鳥取キャンパスを発着地とします。

見学企業

- 株式会社明治製作所
- 大江ノ郷自然牧場グループ(有)ひよこカンパニー

ランチは
大江の郷だよ！

申込締切
5月15日(火)午後5時必着
定員 先着20名

申込方法

- ①次のアドレスへメールで申込
danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp
- ②キャリアセンター又は以下に持参

主催・お問い合わせ先：
男女共同参画推進室
TEL 0857-31-5769
MAIL danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp

協力：
鳥取県就業支援課、女性活躍推進課
地（知）の拠点大学による地方創生推進室
キャリアセンター

女子学生のための企業見学会2018（鳥取県内版）を開催しました！

企業見学 2018.06.20

創学記念日である平成30年6月1日、「女子学生のための企業見学会2018（鳥取県内版）」を開催しました。

今年度は、「女性が活躍している企業を見学しよう！」と、本学の卒業生が活躍している倉吉市で自動車・半車部品の熱間精密鍛造品を製造する株式会社明治製作所と、八頭町で鳥取の大自然から新しい暮らしを提案する大江ノ郷自然牧場有限公司ひよこカンパニーを訪問しました。鳥取県内版の実施は、昨年に引き続き2度めの開催でしたが、工学部、農学部3年生を中心に、15名の女子学生の参加があり、今後インターンシップや就職活動を行うにあたり、「働く」とはどんなことかを現場で直接見、知ることができました。

株式会社明治製作所では、鋼材が加熱され、成形される様子を見て、その迫力と設備に驚かされました。



明治製作所 工場見学の様子

大江ノ郷自然牧場有限公司ひよこカンパニーでは、会社が平飼い（放し飼い）に対するこだわりから始まったものであることを聞き、たまごに対する熱意とそれを実現させる強い思いに心を動かされました。



大江ノ郷自然牧場 座談会の様子

その企業で活躍する女性社員から、現在の仕事内容、その企業を選んだ理由や、明治製作所においては女性社員が少ないことによるメリット・デメリットについて、円滑に仕事をすすめるためには自分から積極的に話しかけるなどコミュニケーションが重要であるといいました。参加した学生は、「女性でも技術の仕事ができるんだということを知りました。分野は少し違いますが、私も将来技術や開発系の仕事をしたいと思っていますのでとても参考になりました」、「女性に直接お話を聞けたので、子供を産んでからのことや働く意識について具体的に聞くことができた」との感想が寄せられました。

本企业見学会にあたり鳥取県雇用政策課・女性活躍推進課、キャリアセンター、地（知）の拠点大学による地方創生推進室にご協力いただきました。御対応いただきました両社および社員の皆さま、ならびにご協力いただきました皆さまに御礼申し上げます。



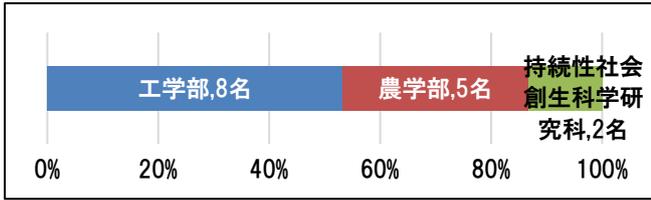
株式会社明治製作所にて



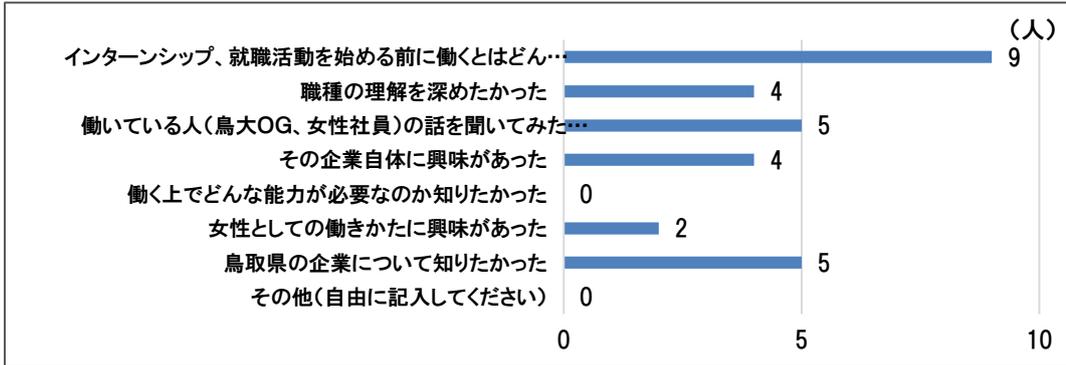
大江ノ郷自然牧場有限公司ひよこカンパニーにて

<アンケート結果>

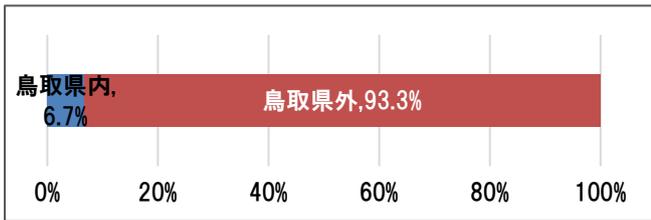
所属学部



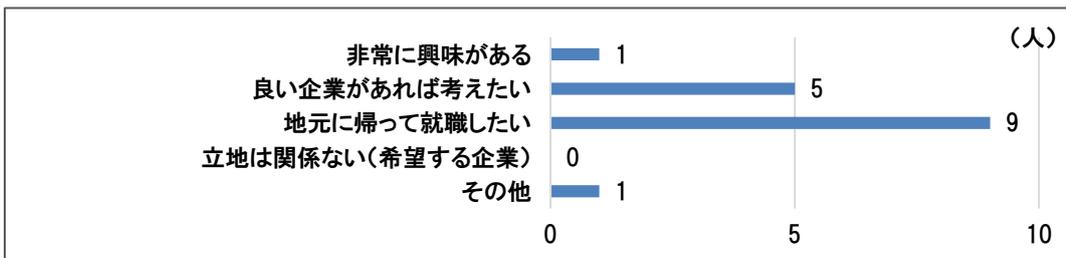
参加動機



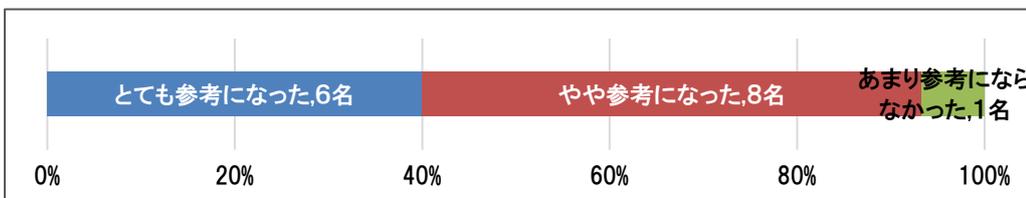
出身地



鳥取県での就職について



見学会の感想



【アンケート自由記入】

●企業を見学して、イメージと違っていたところ

- ・製造業だから男性しかいないので、不便なところが多いと思ったけど、その中に楽しさや笑顔があるのは素敵なことだと思った。（工学部3年）
- ・周りが男性でも、こっちから話しかける勇気があれば話せたり、重たい荷物とかは助けてくれたりすることが分かり、男性ばかりだから話しにくいという感じはしなかった。（工学部3年）
- ・会社からの補助が多い（工学部3年）
- ・女性社員だからこそそのメリット、デメリットはあったが、助けてもらいながら働くことができることが分かった。（工学部3年）
- ・男性社員が多い企業でも仲良くやっていける。（農学部3年）
- ・女性だからこそ輝ける職場もある！（工学部3年）
- ・女性が主体となっているというイメージがなかったが、大江ノ郷では女性社員が多いので、女性が活躍していて良いと思った。（農学部3年）
- ・男性が多い会社であったり、子供がいらっしゃる方であったり、何かガマンしなければいけないこと、つらいことがあると思っていたが、皆さんすごく楽しくお仕事をしていた。キラキラしているなぁと思いました。（工学部3年）
- ・女性社員が多いときは、いい雰囲気だと思います。女性社員が少ない場合は大変なこともあると思います。でも、会社は女性社員は必要だと思います。（持続性社会創生科学研究科2年）
- ・女性に対する手当が結構ある。（農学部2年）
- ・やりたいことを仕事にできてとても充実していた。（農学部2年）
- ・どちらの企業の方も、ものすごく働くことが楽しそうだった点がイメージと違いました。（工学部2年）

●明治製作所を見学して、感じたこと

- ・やはり、製造業ということで明らかに男性の方が多かったが、青戸さんの話では、本当にあたたかいところであることが伝わってきた。鍛造行程は厳しい環境だなと思った。熱いし、音がほんとうに大きく耳をふさいでしまいました。また、青戸さんの話の中で、インターンシップでこれだ！となったと言っていたので、実際に現場に行くと肌で感じることの大切さを感じました。また、常務の方がおっしゃっていたスキルよりも考える力が大切、育ててほしいと言っていたので、これからはそういった力が必要だと思った。（工学部3年）
- ・プレスしている現場を近くで見たのは初めてだった。自動車の部品はこんなふうにしてつくられているんだと知ることができた。すごく細かなところまで設計しているのを実際画面を見て、とても驚きました。技術の社員さんは男性が多いとのことでしたが、その中でも2人の女性社員さんが働いており、女性でも技術の仕事ができるんだということを知りました。分野は少し違いますが、私も将来技術や開発系の仕事をしたいと思っているのでとても参考になりました。（工学部3年）
- ・男性ばかりのところ、がんばっている女性がおられて、会社が大好きという気持ちや鳥取のくらしやすさなどが伝わった。また、検定をうけたり、いい成績をとれば、旅行に行けるなど、仕事のことでなく、たくさんを知ることができて楽しかった。（工学部3年）
- ・私の学科が化学バイオ系学科なので、機械についてはよく分かりませんが、女性だからといって

偏見を持たずとも助けてもらいながら働けることが分かった。工場見学をさせてもらって感じたのは、工場中がとても大きい音がしていたので、耳が悪くなりそうだなと思いました。私の親も工場働きで普通の企業で働いている人に比べて耳が悪い方なので、そういった面で会社選びで疎外してしまいそうだなと思いました。今回案内をしてくださった青戸さんは、終始笑顔で話されていて、この会社が好きなんだなとよく伝わりました。私も働きだしてからそういった風でいられるような会社に就職したいと思いました。(工学部3年)

- ・奨学金や交通費などの助成がしっかりしていて良いと思った。工業系の企業はロボット等が仕事をするイメージが強かったが、自分が思っていた以上に人の手作業で行われていたので驚きだった。(農学部3年)
- ・女性社員が少ない中で、男性社員とのコミュニケーションをとるとというのが少し大変だということが分かった。しかし、自ら進んで話しかけることで仲良くなれることを教えてもらった。(農学部3年)
- ・女性はやはり少ないとのことでしたが、それでも実際に働いておられる女性社員さんの話を聞いて、女性だからといって働けない職場って意外とないのかもしれないと思いました。私が明治製作所で魅力に思ったのは、奨学金の返済を助成してくれていることと、優秀な案を出した社員に海外旅行がプレゼントされるということです。私はこれまで、実際に企業に赴いてお話を聞いたことがなかったので、この2点はとてもひかれました。お金の心配がなくなったり頑張ったときのごほうびがあると、仕事に集中でき、賞与のために頑張れると思うので、将来こんな職場で働きたいなと思いました。今回の明治製作所の見学は、これからの職場選びにとっても役立つと思いました。アルバイトとは違う、責任の重さを感じることができました。鳥大OGとして青戸さんのお話はとても貴重で、身近に感じることができたのも良かったです。将来は地元で就職したいので、地元の企業もやはり自分の目で見る必要があると感じました。(工学部3年)
- ・初めて部品を作っている工場を見学しました。金属を扱う工場は危険であったり騒音がひどいイメージがありました。実際に見てみるとたしかに現場は何tもの圧力がかけられる機械があったり、プレスする音が響いていたり、高温そうな部品がながれていました。しかし担当の方からお話を聞いたり、工場の外を歩いて分かったことは、危険な作業をするからこそ安全面には気をつけていて、外には大きな音がもれないよう建物にも工夫があることを学びました。担当の方もとても丁寧に説明して下さって、資格を取れば給料が上がったり、良い案を出したりするとハワイ旅行が楽しめるような従業員のことも考えている仕組みに驚きました。もっといろんな企業がどのような仕組みで会社が成り立っているか知りたいと思いました。(工学部3年)
- ・女性の方がとても働きやすそうにしていた点で、とても良い企業だと感じました。(農学部3年)
- ・想像していたよりも現場が綺麗だった。女性社員の方が明るく雰囲気よかった。(農学部3年)
- ・男の人が95%って感じの職場で、想像通りだなと思いました。学校の授業で習ったような部品がたくさん工場にあったし、友達が話していた装置があったり、普段なかなか見ない機械を見ることができて良かったです。また、個人的に青戸さんとお話しをさせていただいて、大学のことや工業系の就職、就活のことなど、みんなの前では聞けなかったことも聞けたので良かったです。(工学部3年)
- ・大きな機械が多く迫力があつた。学科とはあまり関係がなく、普段全く馴染みのない分野を見学できて新鮮に感じた。青戸さんがやさしく質問に答えてくれ、親しみやすかった。コミュニケーション能力の大きさが分かり、私も将来男の人が多い会社で働くので、自分から積極的に頼り、話せるようになりた

い。(工学部3年)

●大江ノ郷を見学して、感じたこと

- ・総合職ということでいろいろな仕事環境が存在するのだと思った。今までそのような仕事があると考えてなかったため、自分の視野が広がった気がした。いろいろな分野を勉強した人がいて、仕事についてからも学ぶことが多くあるのだと感じた。また、大江ノ郷という企業が発足した過程を聞いて、伝統にとらわれたり、大量生産することだけに目を向けていたけど、新たな視点から考え、現在に至る。このことから、従来のやり方にとらわれすぎず、自分のやり方でやるのも必要なことだと感じました。(工学部3年)
- ・様々な種類の仕事をしている人と話ができて良かった。座談会というかたちで自分が聞きたいことを聞くことができ良かった。社員さんの年代も様々だったので、違った視点からの話も聞けて、自分のためになった。大江ノ郷は生産から販売まで行っていてすごいと思った。(工学部3年)
- ・3人ものはたらく女性のおはなしが聞けて、たくさんのが学べた。3人ともそれぞれの人生があって、この職業につかれているんだと分かった。これからのインターンや就活にむけてのステップがふめた気がする。(工学部3年)
- ・3人の女性のいろんな意見を聞いてよかったです。採用面接の時に、何を聞いたりするのかとか、お母さん(子供をもたれてから)になられてから転職されたりして、どういう経験をされたとか、色んな経験をされた方の意見を聞き、質問できたのはすごくいい機会でした。(工学部3年)
- ・大江ノ郷は何度か訪れてはいたが、製菓のイメージが強く、養鶏場が始まりということを知らなかった。人事の方や広報、販売の方と、様々な部署の方の話を聞けて、とても良い経験になった。自分は農学部なので、直接お客様と接するのではなく、大江ノ郷の最も根幹となる養鶏場の見学も行ってみたいかった。(農学部3年)
- ・社長が社員の意見をよく聞いてくれて、日々進歩している会社という印象を受けました。また、女性が多いので働きやすいと思いました。私はまだやりたいことが漠然としか決まっていないので、入社してからいろんなことを経験してみて自分にあった部署に入れるのはすごく理想的だと思いました。(農学部3年)
- ・座談会の場を設けていただけたのがよかったです。社員さんや人事の方の生の声を聞いて、来た価値があったなと思いました。客として入る場だけでなく、実際の職場(客の見ない部分)を見せていただければ、より良かったかなと思います。また、大学の専攻と違うお仕事をされている方が多かったので、今の専攻の分野の職場に限らず、自分のやりたいことや興味のあることも視野に入れて、今後、就活準備をしていきたいと思いました。また、社長さんの、会社設立のストーリーを知って、そんな社長さんの思いをつなぎたいと思いそうになったので、その会社に感情移入できるような要素も、企業を選ぶのに見るべき観点の一つだと思いました。これまで仕事とはお金を稼ぐための手段としか考えていませんでしたが、少し見方が変わりました。(工学部3年)
- ・社長が会社を設立するお話から始まり、親の仕事を継ぐことからなかなか新しいことを見つけたり始めることは難しいと思っていました。しかし何事も自分で考えて行動することが大切なのだと感じました。人事の方や働いている方の話を聞いたところ、何をやってきたかも大切だが、企業に入ってどういこうことをしたいか、熱意が大切ということも教えていただきました。大学のうちに勉強をしておけば

よかったと思ったり、遊んでおけばよかったと思う人もいますが、結局仕事に就いてから後悔することはないかと思うので、今したいことをしておこうと感じました。(工学部3年)

- ・初めは、結構きびしい職場なのかなと思っていましたが、座談会などで話を聞いていると、みなさん口をそろえて「社長さんがすごく柔軟性のある方で働きやすい」とおっしゃっていました。休暇制度や手当など、とても充実している会社だなと思いました。(工学部3年)
- ・就職してからやりたいことを見つけることができ、幅広い分野の仕事ができることが分かった。お話しくださった女性社員さんが「社長さんはとてもよく理解があって、社則を変えたりと協力的な人」と言っていたのが印象的だった。(工学部3年)

○女子学生の企業見学会<関西企業>

平成24年度より、女性研究者の裾野拡大と女子学生のキャリアデザイン支援の一環として、キャリアセンターに協力いただき実施。今年度は18名が参加、小野薬品工業株式会社（大阪府）と富士通株式会社（大阪府）の2社を見学した。

案内チラシ



研究所や開発現場で活躍する、企業の女性
研究者・技術者の話を聞こう！！

女子学生のための

企業見学会2018<関西編>

◆参加者募集◆

日程……………平成30年 9月26日(水)～27日(木) (1泊2日)
見学先……………小野薬品工業(株) 水無瀬研究所
 富士通(株) 富士通関西システムラボラトリ
対象……………本学の女子学生・大学院生
 ※7月24日(火)に開催する説明会に参加ください
 ※米子地区の参加者には別途説明を行います
定員……………20名(先着申込順)
参加費……………交通費・宿泊費無料 ※食事は負担頂きます
申込締切……………平成30年 7月18日(水) 午後5時

申込方法

 参加申込書を、男女共同参画推進室のHPよりダウンロード
または、キャリアセンターで入手し、必要事項を記入の上
① danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp へメール添付 または
② キャリアセンターへ申込書を持参 ください。

主催・お問い合わせ先:
男女共同参画推進室
TEL 0857-31-5769
MAIL danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp
http://www.sankaku.tottori-u.ac.jp/
協力:
キャリアセンター



女子学生のための企業見学会2018<関西版>を実施しました！

企業見学 2018.10.25

平成30年9月26～27日、1泊2日の日程で、『女子学生のための企業見学会2018』を実施しました。この見学会は、女性研究者の裾野拡大と女子学生のキャリアデザイン支援の一環として、キャリアセンターにご協力頂き、平成24年度から男女共同参画推進室が実施しています。今年度は小野薬品工業株式会社と富士通株式会社の2社を見学しました。

1日目は、大阪府三島郡島本町にある小野薬品工業株式会社の水無瀬研究所を訪問しました。京都府と大阪府の県境に位置する研究所は、2016年に建てられたばかりの第三研究棟をはじめとし、働きやすさと安全性が担保された施設で、広々とした実験室には最新の実験機材がいくつも設置されていました。各実験室を見学後、2名の女性研究員より仕事内容を伺い、その後班に分かれて懇談の時間をもちました。



小野薬品工業 水無瀬研究所にて

2日目は、大阪府大阪市のOBP内にある富士通株式会社の関西システムラボラトリを訪問しました。1階のPLY OSAKAにてテレビ会議システムを利用して会社説明を受けた後、上階の会議室に場所を変え、女性S Eの方より経歴や仕事内容を伺い、班に分かれていろいろな職種的女性社員の方々と懇談させて頂きました。



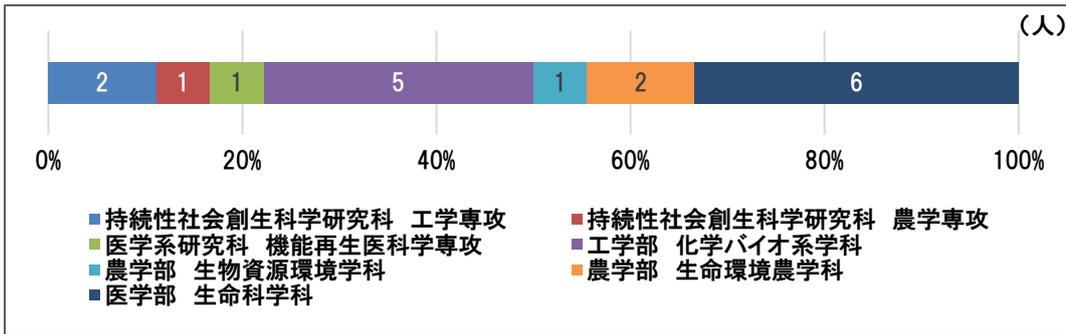
富士通関西システムラボラトリにて

参加した学生より「実際に働いておられる女性研究者の方々の話を聞いたり質問することで、自分の考えていた将来像がガラリと変わる経験となった」との声が寄せられました。

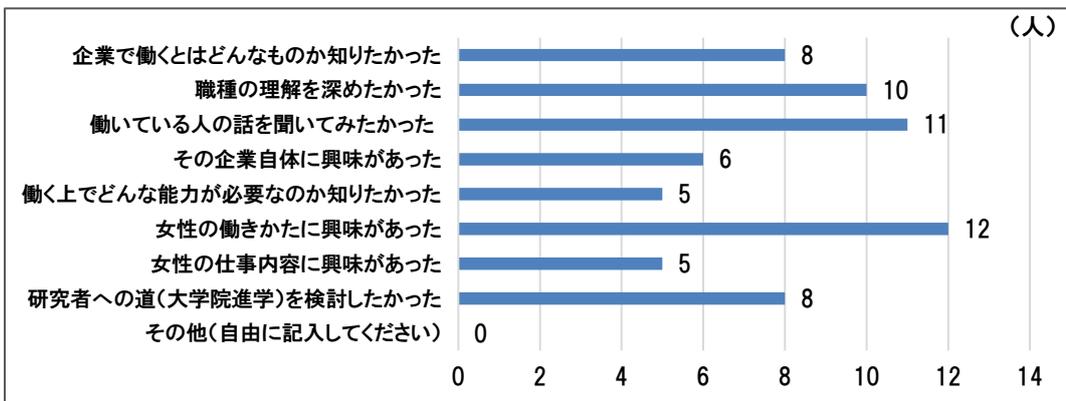
ご対応頂きました両社ならびにご協力・ご尽力いただきました皆様に御礼申し上げます。

<アンケート結果>

所属学部



参加動機（複数回答）



【アンケート自由記入欄】（抜粋）

●見学後イメージと違った点

- ・働き方が変わってきている点。女性がバリバリ働いていらっしゃる点。（農学部2年）
- ・小野薬品さんも富士通さんも社員どうしの会話などからアットホームな雰囲気が感じられ、もっとピリピリした空気を想像していたので意外でした。また、小野薬品さんで、研究者の方達が白衣を着たままデスクに向かっている姿が新鮮でした。（医学系研究科1年）
- ・企業でも残業といっても10時まではいないとか、朝も9時など人によって時間がかえられることにおどろいた。子育てのサポートがとてもしき届いていた。よって女性が働きやすいと思った。（工学部2年）
- ・結婚と育児の両立はある程度できそう。休みや働き方がきちんと決めてあるので、体調を崩すとかはなさそう。（医学部4年）
- ・仕事を楽しんで、生き生きとしていた。育児休暇や産休の制度は以前よりも充実してきているが、それでもまだ不十分なのかなと思った。（農学部3年）
- ・タスカジなどを利用して子どもとの時間を優先している方もいて、主婦のあり方も変化してきているのだろうと感じた。（持続性社会創生科学研究科1年）
- ・子どもが生まれても、一度仕事を休んで、その後復帰することができる点。女性の方々がいきいきと仕事をされていた。思っていたよりも多くの女性が働いていた。（医学部1年）
- ・女性は結婚後や産後は仕事に復帰しにくいというイメージや、子供を育てながら仕事をするのは難し

- いというイメージがありましたが、ちゃんと仕事に復帰できる制度も整っているし、子育てと仕事も両立できるような仕組みになっていたのも、自分のイメージとは全く異なっていました。(医学部2年)
- ・女性の研究者の方は少ないと思ってはいたが、研究の内容などによってはたくさんいるところもあった。また、女性への待遇(結婚・出産・育児)がしっかりとしていた。(医学部2年)
 - ・家庭と両立できる。(農学部2年)
 - ・“女性社員だから”というマイナスなイメージはあまりなく、一社員として働く女性社員の時間の使い方を学べたと思います。むしろ、一社員として社に貢献できるというプラスのイメージになりました。(工学部1年)
 - ・結婚、出産をすると今までやっていた仕事とはかけ離れた仕事をやらされたりしているのだと勝手に思っていたが、そうではないということを知って少しびっくりした。(工学部1年)
 - ・最近では企業方針として女性が産休・育休後に仕事復帰することに対して様々な対応がとられており、女性が仕事を続けやすい(辞めなくてすむ)環境になっているんだと感じた。独身の人生をイメージしていたが、結婚している人がけっこういて、バリバリに働いていた。(医学部2年)
 - ・今回見学させていただいた企業は、女性が働きやすい環境であること、子育てと両立することが出来てサポートも十分であること、様々な所で女性が活躍していて働きがいややりがいをそれぞれ持っていることなど沢山ありました。(持続性社会創生科学研究科1年)
 - ・子育てと仕事を両方している方は、バランスがどちらかにかたよっているイメージをもっていたが、どちらも全力でしている方が多かった。(持続性社会創生科学研究科1年)
 - ・家庭と仕事の両立が可能。ブランクはない。個人ではなく団体・チームでの活動という意識。(工学部2年)
 - ・意外と子育てに関して制度がととのっていた。仕事復帰も意外とスムーズにできていた感じがした。職場の上司や同じグループの人も声をかけてくれる環境もあって精神的、気持ち的な面でも復帰しやすい環境だと分かった。(工学部2年)
 - ・出産して、育てながら働いている人がいておどろいた。(医学部2年)

●小野薬品工業を見学して感じたこと

- ・大学の研究室に似ていたり、見たことのある機器があり、親近感がわきました。将来の選択肢を広げられた気がします。(農学部2年)
- ・短い時間でしたが、実際に研究施設を見学して、そこで働いている方達からお話が聞けてとても充実した時間となりました。完成したばかりの研究棟は想像以上に綺麗な施設で、そこで研究に打ち込む研究者の方達はとてもかっこよく見えました。ずっと曖昧だった薬ができるまでの工程や、新しい薬が世に出るまでの流れなどを詳しく知ることができ、製薬会社の仕事内容が少しイメージしやすくなりました。また、実際に小野薬品で働く女性研究者からの話を聞くことで、現在の働く女性の実態を知ることができてとても良かったです。(医学系研究科1年)
- ・職場を見学、説明してもらって、その中で授業で学んだことがちょこちょこ入っていて、今まで何のために学んでいるのだろうとギモンになったりもしましたが、今後に役立つのがとてもわかりました。また、院に行くか悩んでいましたが、院に行くのがどういうメリットがあるかなど教えてもらい、今後のためになったと思いました。(工学部2年)

- ・歴史ある創薬の企業を訪問させていただけたことがとても良い体験になった。普段、研究室で行っている実験とは違って大規模であることや、化合物探索から臨床試験までを幅広く手がけている所が非常に興味深かった。今回は短い時間だったので、研究者の方がどんな所で苦勞されているのか、開発のディスカッションの様子までは感じられなかったが、女性研究者のお話が聞けて、私も彼女のようになりたいたいと思うようになった。私が当初抱いていたより女性も活躍できる環境が整いつつあった。結婚・育児に対する理解もあるようで魅力的だった。今度またこのような機会がある時は、女性側の話だけでなく、チームメンバーが女性研究者、または女性社員に対してどのような感覚で働いているのかを聞いてみたいと思った。(医学部4年)
- ・研究に必要な設備が充実しており、オフィスも開放的で圧迫感がなかったのが印象的だった。1つの製薬を作るのに何年もかかるため、様々な部署に分かれ、チームで成果を出すという点は知らなかったもので、どんな企業もチームワークが大事なんだなと思った。女性社員に直接お話を聞いたのは良い経験になった。「なかなか結果がうまく出なくても、原因を考えて実験計画を立てて行うことがおもしろい」と楽しそうに話をしてくださっていて、自分の仕事を楽しいと思えることはすごいなと驚かされたし、そのようなやりがいのある分野を見つけられるように頑張りたいと思った。(農学部3年)
- ・私がこの見学会に参加した理由としては、“大学院を卒業しても結婚したら結局はすぐに仕事をやめることになるのではないかと、何かを犠牲にしなければ仕事と育児や家事を両立できないのではないかと”という疑問・不安をもっていただけでした。今回、小野薬品工業を見学させていただき、実際に働いておられる女性のお話を聞くことで、結婚し、子どもが生まれたとしても仕事を続けることができるということを知りました。また、“研究職”と聞いて、閉鎖的なイメージも持っていましたが、実際は研究職だけでなく、開発の方に異動があったり、研修があったりと思っていたよりも開けた職業であると知りました。(医学部1年)
- ・さまざまな研究室を見学させてもらって、高額な機器がたくさんあって、これから製薬を担う企業は、最先端ですごいなあと思いました。女性研究者はやはり少なかったですが、夢の職業なので私も頑張りたいと思いました。また「研究者は常に勉強」とおっしゃっていて、今世の中での医学界ではどんなことが起こっているか、何が一番興味をもたれていて期待されているかなど、常に目を向けて、視野を広げていくことが大切だなと改めて思いました。(医学部2年)
- ・想像していた感じより明るくてきれいだったし、研究している方の様子なども見て、ここで研究できるのがうらやましいなと思った。女性への待遇もきちんとされているので、実際に出産をされて育児をして復帰されている方もいらっしゃるの、私たち女性が今後企業を決めていく上での選ぶ基準にもなると思った。実際に見学させていただいたときに様々な器具をみせてもらって、大学の研究室より高度で立派な器具がたくさんあって、より高度な質の高い研究ができそうで、うらやましいなと思った。今まで研究の道に進むことに迷いなどもあったので、今回の企業見学で実際に見ることができたのは大きかった。(医学部2年)
- ・2時間半という短い時間ではあったものの、自分にとってとてもためになる見学でした。元々、薬品会社には、今勉強している化学が直接的につながりやすいということもあり、就職の際に視野に入らさうと興味をもっていたので、企業の中を見学・案内していただけたことは、今後の勉学への意識向上へとつながったように思います。また、素直に白衣を着て研究なさっている会社の方々楽しそうだなと思いました。大学とは比べものにならないほどたくさんの機器があり、説明していただけた内容も高度で

- もう少し化学の理解が深まってからの方がわくわくしたのかなあとと思います。今の時代、働き方も“フレキシブル”であることを実際に話を聞いて感じられたこともよい経験になりました。(工学部1年)
- ・今まで研究・開発は小さな研究室に何日もこもって実験しているイメージだったけど、小野薬品工業さんは広々とした部屋でやられていたので、快適に実験出来ることが分かった。至る所に休けい所みたいなフリースペースがあって、疲れをあまりためることなく仕事に従事出来ているんだなあと思った。やっぱり研究職に就くには修士号があった方が良いということが分かった。(工学部1年)
 - ・1つの薬品を創るために様々な部があって沢山の人がいて、やっと完成するのはとてもすごいことなんだなと感じた。一つの薬ができるには最低で9年かかり、それでも短い方で長い長い年月を経て創られるので、時には辞めたくなくなったり挫折したりすることがあるかもしれないけれど、患者さんにより良いものを届けたいという想いがあり、やりがい大きいからこそできる研究だなと思った。創薬している人の中で自分の創ったものが世に出たことのある人はほとんどおらず、とても厳しいものだなと感じた。どんどん新しいことが増えていく分野であり、常に調査や勉強が必要であり、新しいことを沢山知りたいと思える人になりたいと思った。小野薬品工業では、この病気を治すものとは決めずに様々なジャンルの薬をとということで、しばられずにできることはとても良いなと感じた。(医学部2年)
 - ・薬品と言われると、毎日実験・研究の繰り返しで大変そうだというイメージがあり、実験がうまくいかないと帰りが遅くなったり、私生活と仕事の両立が難しいイメージがありました。でもそんなことはなく、今自分がしている研究室生活よりよっぽど楽だという話を聞いて驚きました。結婚して子育てと両立するような生活こそ難しそうだったけれど、そんなことはなくて、仕事も育児も思いっきりすることが出来ると聞いて、製薬会社のイメージが変わりました。ただ、実験・研究が大変なのはもちろんですが、思っていたよりも大変なこと、薬を作ることがどれだけ大変で周りとの協力することが大事かを学ぶことが出来ました。実験は一人でやることも多くても、企業となると大勢で一つのものを作り上げたり成しとげたりする機会が多いということ、協調性やコミュニケーション力などがいかに大切かを知りました。この業界を深く知ることに出来る良い機会でした。(持続性社会創生科学研究科1年)
 - ・実際に研究所の中を見学させていただいて、普段の研究室で使っているものもありましたが、それよりも機械自体が大きかったり、数がとても多かったりしたのが印象的でした。しかし、デスクがあって、隣に実験室があるという環境は、研究室と変わりがなく、自分が製薬会社の研究職として働くなら、こんな感じなんだろうなというイメージはわかりました。女性の研究員の方は育児も仕事も全力で取り組んでいらっしゃる様子が分かり、かっこいいなと感じました。最近では女性も働きやすくなったということをよく耳にしますが、昇進などのことを考えると、やはり難しい面があるということもわかりました。私が一番印象に残っていることは、採用面接のときに東大や京大の人と比べて地方の大学生は自信がなさそうに見えるという話で、能力はあるし会社にも染まりやすい素直な人が多いと思うのに、自信がなさそうに見えるのが残念な所だと聞いたので、実際の就職活動では気をつけたいなと思いました。(持続性社会創生科学研究科1年)
 - ・製薬会社で実際に働いている人の姿を見て、会社の中でも様々な担当があるということを知れて、自分の将来の選択の幅が広がった気がした。今まで大学で習っていた聞いたことのある物質や装置を耳にして、より深い興味をもつことができた。研究開発での女性の人数を聞いたとき、まだまだ研究開発に携わっている女性は少ないと知って、自分もその中に入れたらと思った。研究職は成果が出なかつたら…や育児との両立、職場復帰後のブランクなどの面でも研究職を一生やっていく<人生の大半>をそ

の仕事でやれるのかという面で不安に思っていたけれど、実際の声聞くことでそういう心配はいらないのかと知ることができて良かった。製薬に興味があったので、その分野で仕事をする可能性を考えて日頃の勉強などを頑張ろうという動機づけになった。(工学部2年)

- ・会社(研究所)の見学もさせていただいたのでとてもたのしかったです。自分が普段の講義で学んだこともあって、ちょっとだけ親近感を感じました。実際に結婚や出産を経験した方々のお話をきいて、小野薬品だけというか、大企業の方の話なのかもしれないですが、子どもをもつ女性職員の方にもやさしい制度があることを知りました。自分が想像しているよりも制度がしっかりしていて、自分が就活をするときも、そういう制度が整っているかどうかを確認しておこうと思いました。それ以外にも大学院のこと、ラボのこと、たくさんきけて自分の将来をどう設計していこうかちょっとだけ想像できたような気がしました。研究職はそこまで興味があったわけではなかったんですが、今回の見学会で院に行って研究職につくのもいいなと思えてきました。というか自分の進路の中で有力になりました。まだ時間はあると言われて、ちょっと安心したような気もしました。本当に良い機会を頂いたなと思いました。しっかり参考にさせていただきます。(工学部2年)
- ・初めて企業の研究所を見て、“会社(デスクワーク)とは全然ちがうんだ”と思った。研究職のイメージが想像だけでなく実際に目にすることで現実的になった。また、発想を大切に部署ではふきぬけになっているなど工夫がされていておもしろいと思った。同じ研究部門でも所属担当によってやる内容が全然ちがうというのを初めて知れた。直接ききたいこと知りたいことを職員さんから伺えて良かった。(医学部2年)

●富士通を見学して感じたこと

- ・工学部で情報専攻じゃなくてもいけることを知って、もともとIT系に興味があったのでとても面白かった。自分は興味のあることはどんどん勉強していきたいと感じた。(農学部2年)
- ・まず最初に、オフィスがとてもオシャレで驚きました。そこで働く人も、時間や場所に縛られずに自分に合ったスタイルで仕事されている印象でした。SEという仕事あまり分からず参加してしまいましたが、様々な分野で活躍されるフィールドSEがいることやそのような方達を支援する部署があり、それぞれの仕事内容を聞くことができて良かったです。また、文系理系関係なくSEになれると聞いて驚きました。私は生物系で基礎医学を学んでいて、ICT企業とはあまり縁がないと思っていましたが、教育や医療にも介入している富士通さんにとっても興味をもちました。(医学系研究科1年)
- ・今回、実は工学部として専攻は化学の方向ですが、ネットワークといった電気・電子機器に興味があり、富士通という大きな企業に見学させてもらえることに本当にありがたいなと思いました。そして科学の方面だけでなく電子の方向にも目を向けてみるのもありだと思いました。(工学部2年)
- ・FUJITSUと言えばパソコンやスマホのイメージが強く、ITの最前線に行く企業で自分とは無縁だと思っていた。でも今回の見学を通じて、様々な業種、職種の人を対象にシステムを開発・運営していることが分かってよかった。就活のことを本気で考え始めていたからこそ聞いたことがたくさんあったし、バイオ系や文系でもSEになることができると知って、自分の就職先はあまり狭くしないほうがいいなと感じた。女性の方でこんなにバリバリ仕事をされている様子を見ると、そういう家庭を重視した働き方にも理解のある会社なんだなと思った。(医学部4年)
- ・SEのイメージが大きく変わった。工学部出身で、プログラミングの経験者の方が多いのかと思った

ら、他の理系学部や文系学部出身の方が多くを知り、驚いた。また、パソコンの技術よりも重要なのは、お客様や他の社員とのコミュニケーションであることがよく分かった。また、富士通が扱っているサービスは幅広く、病院、住宅、学校など身の回りでシステム開発にたずさわっていることを学べたし、プライベートとうまく両立させているということが感じとれた。今まで、私は農学部だし、パソコンやシステムなどは苦手な分、分からないからと避けていたけれど、もっと視野を広くもって自分の将来について考えようと思った。(農学部3年)

- ・専門は異なるが、幅広い分野に関わっており、それぞれの分野でより快適な環境を作るための提案や手伝いができる仕事であることを身近に感じることができて、SEという仕事について今後調べてみようと思うきっかけになった。成長の激しい分野を扱う企業であるから、社会の変化には敏感であり、会社内の制度や人材育成もより良いものに変えていこうという姿勢を感じた。常に未来の世の中を考えて仕事をしている姿に憧れを持った。(持続性社会創生科学研究科1年)
- ・自分の向かっている方向とは違う企業でしたが、今まで不明瞭であった自分の将来働いて家庭をもつという状況が、少し想像することができるようになりました。私はまだ大学1年生で、将来どのような仕事について、どのようにすすむのか全く考えていなかったのですが、今回の企業見学で、自分の求める将来像を見つけていくことができました。(医学部1年)
- ・「富士通」と聞いたときに、自分の中でパソコンを使ってシステムを作る、という工学のイメージが強かったので医学部の自分とはあまり関係のない分野かなと思っていました。しかし、見学してみて社員さんのお話を聞いてみると、学部どころか、文系・理系も関係なく、色々な分野の方が働いていることが分かりました。自分が興味のあるテーマをもとに、それが役立つシステムを開発するので、電子カルテのように、医学部の私も医療系に目を向けてみると無縁ではない、と思いました。社員さんのお話の中で印象に残った言葉は、「一番大切なことはコミュニケーション力」ということです。他企業と話し合いを進めていくなかで、こんなシステムが欲しい、こんなシステムがあれば便利、ということに気付く、とおっしゃっていたので、コミュニケーション力を重視されていることが分かりました。しかし、どこに就職してもコミュニケーション力は必要となってくると思うので、私も普段からたくさんの人とコミュニケーションをとって対人関係を築けていけたらいいなと思います。(医学部2年)
- ・富士通には様々な学部出身の方がいた。また、私の富士通のイメージはパソコンなどのイメージがあったが、それだけではなく電子カルテや家の設計などにも携わっており、幅広い分野で活躍をされていた。自分が大学で学んだことだけでなく、会社に入ってから日々勉強していて、大きなプロジェクトなどを成しとげていた。また、富士通さんは女性への制度がしっかりしていたのが印象的だった。小6に子どもがなるまで勤務時間を短くしたり、遅れてしまったぶんを一ヶ月のどこかでおぎなうことができるのは、結婚・出産しやすく、優しいと思った。(医学部2年)
- ・情報系でも工学部卒である必要はないこと。生活の様々なところでITが関わっていること。**Keep, Practice, Try** この3つは今後の生活に役立てようと思った。(農学部2年)
- ・P L Y Osaka さんを見学させていただき、とても刺激的な時間でした。正直、IT関連、プログラミングや営業、開発などの職種に関しては下調べはしたものの、知識が全くもって乏しく、興味はさほどなかったのが見学前の気持ちでした。しかし、富士通さんにおいては、前線でプログラムを営業でまわって病院や学校に売り込む方がいたり、プログラミングの人の仕事をより円滑にしてもらうためのシステムを考える人がいたり、同じ会社の中にも様々な職種があることを知りました。また、システム

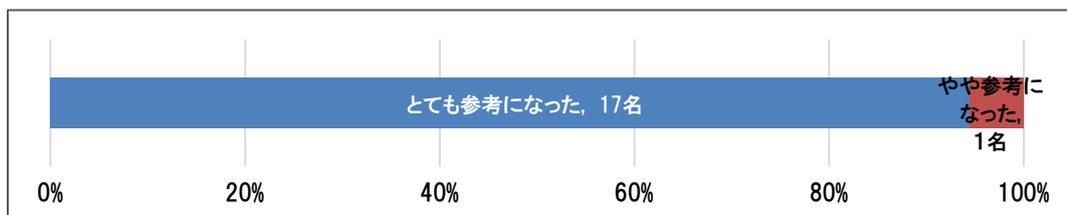
と聞くと私の学んでいる化学とはほど遠いと思っていましたが、案外、大学で学んだこととのつながりが薄い方も一定数いらっしゃり、大学生活でそれほど深刻に学びを将来につなげようとせずとも、興味のあることを勉強すればよいかと大学生活への展望が開けたのでよかったです。仕事をする上で、自分で勉強して知識や技術をたくさん身に付けておくことも必要であるとは思いますが、何より、人とコミュニケーションをより取れることの方が大事であると富士通の方を見て痛感しました。(工学部1年)

- ・電機メーカーはずっとプログラミングや機械製品作りをしているイメージで男性が中心となって活動しているのだと思っていたが、女性が活やく出来る場面がたくさんあって驚いた。工学部の電気や機械を扱う人たちしか働いている人はいないと勝手に思っていたが幅広い学部・学科の人たちも働いているようで自分もそういった業界の企業も視野に入れることは可能なんだなと思った。(工学部1年)
- ・入社した人への対応がすばらしいと思った。例えば、SEという仕事で入社したとして「もともと知っているでしょ」と専門的なところから入るのではなく、どんな人でも始められるように基礎からしっかりとやってくださり、全員のスタート位置が同じなところはとても良いと思った。これが理由かはわからないが、もともとSEになるようなことをしてきていない人がけっこういるらしく、会社に入ってから自分が興味のある新しいことを始められるのはとても良いなと思った。富士通はパソコンなど日常で使う機械というイメージがあったが、話をきいた女性SEの中に電子カルテのプログラミングをやっている方がいて、医療の面でも関わっていることを知れて、こういう関わり方もあるんだなと思った。(医学部2年)
- ・富士通といえばITだったりパソコン、プログラミング等情報系の会社というイメージしかありませんでしたが、そういうことはもちろんですが他にも様々な職種があることを知ることが出来ました。特に、情報系出身者以外も沢山いるということを知って、仕事内容も楽しそうで、こっち方面の職種についてはあまり考えていませんでしたが、興味を持ちました。思っていたよりも子育てと両立しているという人が多く、一度休んでも仕事に復帰しやすかったり、その辺のサポートがしっかりしているという話も聞けて、福利厚生もしっかりしており、女性が働きやすい職場と言われるのも納得しました。仕事内容によって、大変なことやきついことも違って様々でしたが、どんなことにもやりがいがあるということ、楽しいということを知ることが出来ました。情報系やIT関連の職種に興味の幅を広げることが出来た良い機会でした。(持続性社会創生科学研究科1年)
- ・富士通といえばパソコンというイメージが強かったのですが、色々なお話を聞いて、システムを作る仕事が多くあり、様々な企業や学校に欠かせない存在であるということを知りました。さらに、作っているシステムの分野も様々で、システムを作る知識以外にも専門用語などを勉強しなければならないということが大変だなと思いました。また、文系の人でもシステムエンジニアになれるような研修をしていて、会社を選ぶときにはどのような研修をしてくれるのかも大事という話を聞いて、今まで研修でどのようなことをしているのかというところはあまり気にしていなかったもので、これからは気にしてみたいなと思いました。富士通では働き方も様々なものがあるということも分かり、とても働きやすそうな会社だなというイメージをもちました。(持続性社会創生科学研究科1年)
- ・富士通のイメージはIT系のイメージがあったが、実際に話を聞いてみると企業戦略をたてたり、IT技術を利用した仕事をしている人がいて、こちらも様々な職があるのだなと考えさせられた。女性に対しての働きやすい環境をつくっていて、就職の際にその条件なども気にして就職する企業を選ばないといけないと思った。いろいろな人の話を聞いて、どの人も自分の仕事に熱意ややりがいを感じながら

つとめており、とても素敵だった。富士通では社員さんにご飯を一緒に食べたり、蜜に話す機会があって、入ってからも勉強して頑張らなければならないことや、大学でやっていたものがそのままつながるわけではなく、就職してからの頑張りということ、息抜きは大切ということを知り、今までの就職してからの考えが変化した。幅広い視野を今回の見学でもつことができるようになったので、とても良かった。（工学部2年）

- ・富士通はIT系とかシステム系で私が学んでいる分野にはあまりなじみがないように思えたのですが、実際働かれている方も情報系の学部、学科を卒業されていなかったもので、あまり関係ないのだなという印象でした。それよりもコミュニケーション力の方が重視されているような感じでした。お子さんももたれている方もとても働きやすい環境だということで実際に働きやすさNo. 1の会社だということも分かりました。そして富士通さんは様々な業界のシステムに関わっていることがわかりました。就職のこととか、なぜ富士通に入ったのかということも全部はなしてくださいました。どの企業でも社会人になっても勉強は必要なんだと感じました。あと人前で話すということや英語など大学生のうちに勉強できることはやっておこうと思いました。小野薬品の方々とはまた違う方向でのお話がきけたのでよかったです。たくさんお話をきけて、本当に良い機会を頂けたと思っています。（工学部2年）
- ・大学から専門でプログラミングのことなどをやっている人ばかりだと思っていたが、理系だけど機械的なことをやってきていない人や文系の人もいて驚いた。大学・大学院でやりたいことと就職と一緒に考えなくてもいいんだと思え、気が少し楽になった。インターンの方がきていて話をきくと、一週間も参加させてくれたり、交通費、宿泊費を出してくれたり、女性の社員さんの出産、育児サポートがすごく整っていたり、「大手メーカーの強み」をみた気がする。院でやりたいことをやって、そのあとは普通に企業へ就職するのでもいいかと思った。（医学部2年）

●見学会の感想



<そう思った理由>

- ・自分に何が足りないのかが分かった。
- ・元々、製薬会社には興味があったので小野薬品さんで女性研究者の方と直接お話できたのは参考になりました。また、今まであまり関心のなかったICT企業にも訪問させて頂いて、就職活動の視野が広がったからです。
- ・製薬についてどういう人がいるのか、どういう道（学部、研究した内容、院に行くこと）をたどってきたのかを知ることができて良かった。
- ・普段自分で職業を探す時は、どうしても職種を絞ってしまうけれど、このように関係ある所も無い分野も見ることによって自分の考え方や視野が広がったように感じたから。小規模で質問ができるので、本音が聞けたので良かったと思うから。
- ・女性社員の方に自分が考えたことや感じたことを、どんな小さなことでも聞くことができたから。人数

がそれほど多くなかったこともあって、変に緊張せずにお話することができたから。

- ・どちらの企業の方も手厚くもてなして下さり、企業の見学も十分にできた。また、それ以上に直接女性社員の方とお話をさせていただけたことで、働いている分野の魅力や育児と仕事の両立が実際はどのように変化してきているのかということが身近に感じることができた。
- ・実際に働いておられる女性研究者の方々の話を聞いたり質問することで、自分の考えていた将来像がガラリと変わる経験となったため。
- ・今まで自分の夢や将来は、すごく漠然としたものでしたが、今回の企業見学会を通して、少し具体的になり、より勉強を頑張りたいと思えるきっかけになったからです。また、色々な企業を見てみたいとも思ったので、自分の就職に対する関心が高まるきっかけにもなったので、よかったです。
- ・実際に女性の研究員の方とお話しすることができたり、研究をしている場所や器具を見せていただけたのは参考になったし、実感もわいた。聞いたり見たりして実際にわかったことも多くあった。
- ・大手企業の内部を直接みれて、どんなことをしているのかよくわかったため。
- ・今回の企業見学会には、女子学生・食費のみで気軽に企業の見学ができるということで参加しました。将来、就職することに関してのビジョンが全く描けていなかったのも、実際に生の声をたくさん聞くことができたことと、同じような境遇の他学部、他学年の方と交流できたことが、今回多いに収穫できたことだったからです。
- ・仕事に対する思いや女性が働きやすい環境が整いつつあることを知って勉強になった。
- ・なかなか企業で働いている方とお話する機会はなく、さらに女性となるともっとできないし、自分の知りたいことを直接きくことができるのはとてもありがたいから。またジャンルの違う2企業を見学することで自分が興味ある分野だけでなく知ることができ、こういう仕事の選択もあるのだなと幅を広げることができたから。
- ・インターンなどはいくつか行ったことがありましたが、社員（特に女性）から直接話を聞く機会があまりなかったのも参考になったし、自分が進みたいと考えていた方向と全く違った企業にふれることも出来て、興味をもてたし職種に対する興味の幅を広げることの出来た良い機会だったため。
- ・実際に子育てをしながら働いている女性社員の方の話を聞くことができて、就職してからのことを考えることができました。さらに、研究所を見せていただいたことで、自分が研究職についたときのイメージもわきました。
- ・私は将来どの分野で仕事をしたいかなど明確に決まっていなかったため、自分の興味があるものが何かわかって良かったから。また職員さんの話からも、すぐに決めなくても幅広く視野を広げておいても良いと気づかされた。
- ・実際に働かれている方、特に女性の方からのお話だったので、結婚、出産、子育てすべてはなして下さったし、ニュースとかで育休の話はききますけど、実際どのようなものかわかっていなかったのも、フレキシブル制度とか、産休、育休のあと勤務時間の短縮とかがあって大企業だけかもしれないですが、制度がしっかりしていることも知れました。
- ・自分がやりたいと思っていることができるか、どんな仕事内容があるかなど直接きけるし、実際に社員さんが働いている場を見れた事でイメージもつきやすかった。

(4) 意識啓発活動など

○ダイバーシティセミナー（FD研修）

教職員を主な対象とし、「LGBT」とは何か、「LGBT」についての知識を正しく学び、当該者、特にトランスジェンダー（T:性同一性障害）の学生に対し、どのような配慮が必要か、支援方法などについて学ぶことを目的として、6月21日に岡山大学大学院の中塚教授をお迎えし開催した。

本セミナーはFD研修と位置づけ、あわせて男女共同参画週間（6月23日～29日）に関するイベントとした。参加者は55名。

案内チラシ

平成30年度男女共同参画週間関連イベント

ダイバーシティ セミナー

FD
研修会

■日時 平成30年6月21日(木) 16:30~18:00
■会場 広報センター セミナールームC
※米子会場 共用会議室2 (総合教育棟) LAN中継

学生の支援や
対応方法を
学ぶ

講演
「LGBTとは
トランスジェンダーの学生への支援について」

講師 中塚 幹也 氏
岡山大学大学院保健学研究科 教授
岡山大学ジェンダークリニック 医師
G I D (性同一性障害) 学会 理事長

本セミナーではLGBT、性的マイノリティーの基礎知識と、配慮が必要となるトランスジェンダーの学生への支援を中心に学びます。

主催・お問い合わせ
鳥取大学男女共同参画推進室
TEL 0857-31-5769
MAIL danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp

～『男女共同参画週間』とは、男女共同参画社会基本法の目的及び社会理念に関する理解を深めるために制定されたものです～

HP掲載

ダイバーシティセミナーを開催しました！

セミナー 2018.07.10

6月21日(木)に、岡山大学大学院保健学研究科の中塚幹也教授をお迎えし、ダイバーシティセミナー『LGBTとは トランスジェンダーの学生への支援について』を開催しました。

中塚先生は、産婦人科医で、GID（性同一性障害）学会の理事長であり、本分野における第一人者です。本学にも在籍していると考えられるLGBT（性マイノリティ）、中でもトランスジェンダーの学生への対応方法やどのような支援が必要なのかについて、お話いただきました。

セミナーは、テレビ番組に登場したキャラクターの話から始まり、LGBTについての現状や海外の動向、学校での対応状況などをお話頂きました。特に性指向と性自認の違いについては、例をいくつか挙げて、受講者に「性指向」か「性自認」かを質問される場面もありました。

受講者からは、「LGBTの状況について、歴史的に、法的に、また文科省等の取組みも含めて知ることができた」「具体的に例を示しながらの説明で分かりやすく、具体的にどのような取組が必要なのか、イメージしやすかった」との感想が寄せられました。



○介護セミナー

介護に関する基礎知識や支援制度について学ぶことにより、仕事と介護の両立について前向きな意識を持ち、仕事に対するモチベーションを維持させるとともに介護離職を防ぐことを目的として、鳥取県長寿社会課「働く介護家族応援！」企業内研修開催支援事業を活用し、株式会社ニチイ学館鳥取支店の船越氏をむかえ、鳥取地区2月18日、米子地区2月19日に開催、計50名が参加した。

案内チラシ

介護セミナー

～仕事と介護の 両立のために～

お気軽にご参加ください

家族の介護とは、具体的に何をしなければならないのか。介護保険で賄えるサービスは何か。仕事と介護を両立するために、介護に関する基礎知識や支援制度について学びます。

講師：株式会社ニチイ学館 鳥取支店 船越 英将氏
内容：介護の現状
高齢者の特徴(身体機能の低下、認知症とは)
介護保険(サービスの仕組み、費用)
仕事と両立するための制度 他

鳥取キャンパス

日時：平成31年2月18日(月)
14:00～15:00
会場：広報センタースペースC

米子キャンパス

日時：平成31年2月19日(火)
17:30～18:30
会場：第2中央診療棟2階
会議室2



※受講希望の方は、下記宛に2月12日(火)迄にお申し込みください。

問い合わせ・お申込みは
男女共同参画推進室 TEL 0857-31-5769
MAIL danjyo@ml.adm.tottori-u.ac.jp

介護セミナーを開催しました

セミナー 2019.03.14

2月18日(月)に鳥取地区、翌19日(火)に米子地区にて、株式会社ニチイ学館鳥取支店の船越英将氏をお迎えし、介護セミナー『～仕事と介護の両立のために～』を開催しました。

家族の介護とは、具体的に何をしなければならないのか、介護保険で賄えるサービスは何か、介護という事態が現実のものとなった際、仕事と介護を両立するために、介護に関する基礎知識や支援制度についてお話しいただきました。

「介護保険の仕組みとサービスの流れ」においては、介護サービスを受ける際の申請先や、認定調査に約1ヵ月要するものの認定前1ヵ月から介護サービスは前倒しで利用できること、介護サービスの自己負担は1割、または一定以上所得のある場合は2～3割負担であるなどであるなど、知っておきたいポイントを資料に沿ってわかりやすく説明いただきました。

受講者からは、「調査データが参考になった。サービス、制度の種類も参考になった」「介護サービスも高齢者の人口増加に合わせ多様化している事を学べ、少し安心した」との感想が寄せられました。



<鳥取地区の様子>



<米子地区の様子>

(4) その他

○休憩室&相談室

平成29年9月、男女共同参画推進室内に【休憩室&相談室】を開設。今年度は、体調不良時の休養に地域学部的女子学生が複数利用した。また、男性教員の育児休職に関する相談や、女性教員の病児保育に関する相談など、延べ27件の利用があった

また、22冊の書籍の貸し出しを行った。



○看護師による個別相談の実施

生理痛、生理不順による体調不良（過呼吸や貧血など）を訴え、保健管理センターを受診したり、男女共同参画推進室内休養室に来室する学生が増えている一方、学生にとって病院（産婦人科）は行きづらく、我慢していることが多いことから、専門家による個別相談を通じて女子学生の心とからだの悩みを解決するとともに、ライフプランニングに資する情報提供を行うことを目的として実施。

今回試験実施として、チラシを保健管理センター、学生相談センターに配置。地域学部棟内の女子トイレに掲示。4名が相談に訪れた。

案内チラシ

生理痛
生理不順
不妊症とは？
妊娠しにくくなる
ってほんと？

看護師 による
個別相談 を実施します

日時：平成31年1月17日 木曜日
11:00~15:00
場所：男女共同参画推進室(地域学部棟4階)
対象：女子学生 他

**体のお悩み
ご相談
ください**

問い合わせ、予約はこちらまで
※予約なしOK。ただし、予約が優先。

相談看護師：
鳥取県東部不妊専門相談センター
不妊症看護認定看護師
橋本万任子

鳥取大学男女共同参画推進室
地域学部棟4階
TEL) 0857-31-5769
[MAIL] danjo@ladm.tottori-u.ac.jp

○不妊治療に関するアンケート調査の実施

働きながら不妊治療を受ける方は少なくなく、男女共同参画推進室においても不妊治療に関する相談が寄せられている。不妊治療は、ホルモン分泌のタイミングが治療のスケジュールに大きく影響するため、休暇の予定が立てづらく、また先が見えないことから休暇の日数にも不安を感じる職員がいる。

また、不妊治療は、本人にとって身体的・精神的に大きな負担となるにもかかわらず、極めてプライベートなことであるため、他者へ相談しづらく、一人あるいは夫婦間のみで悩みを抱えながら治療を行っているケースも多いと考えられるため、学内における教職員の不妊治療に関する実態を把握するため、下記要領にてアンケート調査を実施した。

◆調査期間：平成31年1月15日～2月8日

◆対象：鳥取地区女性教職員418名

◆調査方法：学内eラーニングシステム（Moodle）を利用し、回答者が特定されない方法で収集

◆結果概要：

鳥取地区の女性教職員に限定して調査を行ったが、対象者418名中現在不妊治療中もしくは、過去に不妊治療を行ったことがある方は11名。回答者の中では2割を超えるが、対象者全体では2.6%で、産休・育児休職中の方の中にも該当者がいることが想定される。

働きながら不妊治療を行う上で困る点として、「短時間でも有給休暇を取らなければならず有給休暇がなくなる」、教員では、「講義や研究室の対応、海外派遣プログラムなどは休めない」、また「体調がすぐれないときも不妊治療中であることを公表していないため言いづらい」などがあがった。

治療をしたことがない方からの意見として、「必要となる休暇等が取得できたり、休職することができるよう、早急に制度を整備するべき」との声がある一方、「年次有給休暇を活用した対応で十分であり、年次有給休暇を100%取得することが当たり前の働き方を実現することが重要である」との意見もある。その他にも、不妊治療を口外できず身体だけではなく精神的にも負担を強いられている状況や、職場の理解を求める意見があった。

休暇の取りやすさ（短時間であれば休暇をとらなくてもよい仕組み）や、職場の理解を求めたいが、不妊治療中であることも言えないというジレンマの解消をはかる策を検討する必要がある。

8. ニュースレター

鳥取大学男女共同参画推進室便り

Pear Pair 通信 第23号

2018年4月5日

●お知らせ — 新年度スタート —

平成30年度がスタートしました。間もなく新入生が入学、休学のあるキャンパスが響いてきます。
 事務局職員も春休みの月間で活動しました。ご不便をおかけすることがあるかと思いますが、男女共同参画推進室は、教職員の皆さまの存在が不可欠なよう感じますので、よろしくお願いたします。

●活動報告① — 平成30年度(第9期)研究支援員制度開始 —

育児や介護など、ライフイベントのために研究時間が十分に取れない研究者に対して研究支援員を配置することで、研究活動に対する支援を行う研究支援員制度の平成30年度(第9期)がスタートしました。
 男性研究者へも支援を拡大しており、年度単位の支援とすることで、研究者の負担を軽減しております。
 申込は終了しましたが、年度途中の面接候補などありましたら、男女共同参画推進室へご相談ください。

●活動報告② — 平成29年度活動報告 —

昨年度の活動報告を取りまとめました。詳しくはHPをご覧ください。

★おススメの一冊 『割じ込められた子ども、その心を聴く』

男女共同参画推進室で貸出を行っている本をご紹介します。
 心の性と身体性が一致しないことで悩んでいる性別同一性障害当事者の中には、無関心やいじめによって、うつを引き起こりやすくなり、自殺をしようとした経験を持つ人が少なくない。性別への悩みを持つ子どもの心を通り、性的マイノリティに関する正しい知識をもつことが重要と訴えています。
 筆者である中野彰也氏は、自身が当事者にあたるだけでなく、当事者活動にも力を入れておられ、本年夏学期に前巻としてセミナーを開催予定です。

著：中野 彰也
 岡山大学大学院 教授

鳥取大学男女共同参画推進室便り

Pear Pair 通信 第23号

2018年4月5日

●お設立ち情報 — 出産・育児で利用できる制度をご紹介します。

ご存知ですか? 出産・育児で利用できる制度をご紹介します。

育児のための働き上げ・働き下げ制度
 (小学校就学前の子どもを養育する教職員は、無期に変更できないと定められる時、休憩時間を45分間とし、始業時間の15分繰り下げ又は終業時間の15分繰り上げを行うことができます。)

育児休暇制度
 (小学校就学前までの子どもを養育する教職員は、子どもを養育する場合(1日10時間勤務)に要する日(子どもの入園以上の場合は入園10日)の休暇を取得することができます。)(有期休暇の範囲は無期扱い)

教職員の育児や出産等に利用できる制度があります(実働教員のみ)。

配偶者休暇制度(産休取得に際する次の休暇)
 雇員の養育に要する時に、出勤のため欠勤した日から出産後2週間まで最大2日間の範囲内で入退勤が出席停止、出席停止等継続のための休暇を取得することができます。

特別休暇(有給休暇)
育児特別休暇
 生れた子どもの性別、任意で、上の子どもの保育所への送迎等のため、最初の産後・育児特別休暇の期間において、5日間の範囲内で休職を取得することができます。

特別休暇(有給休暇)
 男女共同参画推進室HPに、育児・介護に関する制度を掲載しています。制度を利用して、育児期間を乗り越えましょう!

ご質問・ご相談など下記までお寄せください

〒690-8501
 鳥取県鳥取市山形1丁目10-1
 鳥取大学男女共同参画推進室(総務学術棟4階)
 ● 総務学術棟事務室前設のネットワーキングをご利用ください。

T E L : 0857-31-4378 直話 内線2300
 F A X : 0857-31-4370
 Mail : cahp@u-bi.ac.jp cahp@u-bi.ac.jp
 W E B : <http://www.u-bi.ac.jp/~cahp/>

担当：総務 課長 橋本 雅子(キャリアコーディネーター)
 専任コーディネーター：橋本 雅子(キャリアコーディネーター)

Pear Pair 鳥取大学 男女共同参画推進室

鳥取大学男女共同参画推進室便り

Pear Pair 通信 第24号

2018年6月5日

●お知らせ — 男女共同参画推進週間 —

「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を機会に、6月23日から29日まで一週間を「男女共同参画推進週」として本学内外で挙げていきます。
 動物のふれあい活動、学校で、家庭で、それぞれの個性と能力を尊重する社会を実現するための取り組み、平成20年度のカンファレンスは「進めど、性別のハードルを超えて、今」男女共同参画推進室では、ダイバーシティセミナーを始発イベントとして開催しますので、是非ご参加ください。

●お設立ち情報① — ダイバーシティセミナー (FD研修) 開催 —

前号の「おススメの一冊」にてご紹介しました『割じ込められた子ども、その心を聴く』の著者である岡山大学大学院の中野彰也教授をお迎えし、セミナーを開催します。

【L.G.B.Tとは】 トランスジェンダーの学生への支援について
 日時：平成30年6月15日(金) 16:30~18:00
 会場：国際センター セミナールームC
 司会者：橋本 雅子(専任コーディネーター) L.G.B.T中野 彰也

本セミナーではL.G.B.T、性的マイノリティの基礎知識と、配慮が必要となるトランスジェンダーの学生への支援を中心に学びます。
 学生との対応に必要な教職員の方は是非ご参加ください。お集まりの機会に申し込みにください。
 詳しくはHPをご覧ください。

●お設立ち情報② — とりりんサマースクール2018開催 —

平成27年、28年年度に開催し、好評いただきました夏休み学習会「とりりんサマースクール」を本年夏の開催を計画しています。
 対象は、本学にて夏30日程度以上勤務する教職員で、日中自由に帰家する者がいない家庭に限りです。定員は20名、応募多数の場合は、抽籤学業優先を利用させていただきます。詳しくは、またご案内します。

鳥取大学男女共同参画推進室便り

Pear Pair 通信 第24号

2018年6月5日

★この人に聞く 實来佐和子さん 農学部 道教授

専門は環境化学です。生物学、とくに動物生態をターゲットにして環境中の内臓レトリブを環境影響評価を行ってきました。現在は、野生動物における動物生態の分子系統解析に重点を置いた研究を実施しています。鳥取大学に赴任して10年になります。3歳と3歳の女の子がいます。暑もゆかりも鳥取で、一人で子育てをしているのだろうか?と不安でいっぱいでしたが(パートナーは鳥取在住)、地域の人も、研究支援員制度、そして学術科の先生方や学生さん達、事務局の方々に支えられてここまでやってこれました。また、私が長期出張の際は、実家のある鹿児島から遊びがてらごちそうのお便りをいただき、うれしく感じています。子育ても研究も「実来がき」をしながら頑張りたいと思っています。

鳥取はもともと農業です。その発展に誇りを持ち、農業遺産化している時間が好きになります。子育ても研究も「実来がき」をしながら頑張りたいと思っています。

★おススメの一冊 『ワンオバ育児 わかってほしいゆめのない日々』

男女共同参画推進室で貸出を行っている本をご紹介します。
 次男の成長を一人でフォローアップする働き方にとどまらず、仕事が一人で育児や家事をする状態を「ワンオバ育児」と呼び、昨年度流行語大賞の候補にも選ばれました。
 なぜ「ワンオバ育児」になるのか、仕事と育児の両立に迫ります。
 著者の藤原先生は、昨年度『とりりんサマースクール 夏休み学習会』において、「ワンオバ育児」が女性職員の育児に悩まれているのか、その解決策を考えた女子への本学にたいしてご講演いただきました。

ご質問・ご相談など下記までお寄せください

〒690-8501
 鳥取県鳥取市山形1丁目10-1
 鳥取大学男女共同参画推進室(総務学術棟4階)
 ● 総務学術棟事務室前設のネットワーキングをご利用ください。

T E L : 0857-31-4378 直話 内線2300
 F A X : 0857-31-4370
 Mail : cahp@u-bi.ac.jp cahp@u-bi.ac.jp
 W E B : <http://www.u-bi.ac.jp/~cahp/>

担当：総務 課長 橋本 雅子(キャリアコーディネーター)
 専任コーディネーター：橋本 雅子(キャリアコーディネーター)

Pear Pair 鳥取大学 男女共同参画推進室

鳥取大学男女共同参画推進室便り



Pear Pair 通信 第25号

2018年8月5日

●お知らせ 一子どもたちの夏休み一

夏休みに入りました。夏休み子どもが帰る頃には帰ることができるけれども、不安な思いをされている方も、夏休みは学校に行かない子どももいる。不安な思いをされている方も多いと思います。

男女共同参画推進室では、本年夏休み学習プログラム「とりりんサマースクール2018」を開催し、少しでもご家庭の負担を減らすべく考えております。たくさんの方にご参加いただき、楽しく学べる体験プログラムもぜひ実施します！夏休みの思い出を、子どもたちといっしょにつくりたいと思っています！！

●活動報告① 一女子学生のための企業見学会2018(鳥取県内版)を開催しました-

8月1日に「女子学生のための企業見学会2018(鳥取県内版)」を開催しました。

今年度は、「女性が活躍している企業を見よう！」と、大学の卒業生が活躍している倉吉市で自動車・電気製品の製造販売を製造する株式会社製作所と、八幡町で鳥取の大自然から新しい暮らしを提案する株式会社自然生活者協会ふじこカンパニーを開催しました。

工学部、農学部の3年生を中心に、15名の女子学生の参加があり、今年インターンシップや就職活動を行うにあたり、「働く」とはどんなことかを現場で実感。知ることができ、有意義な見学会となりました。

●活動報告② 一ダイバーシティセミナーを開催しました-

8月21日に、岡山大学大学院国際文化研究科の中野野島教授をお迎えし、ダイバーシティセミナー「LGBTとは」トランスジェンダーの学生への支援について」を開催しました。

セミナーは、テレビ番組に登場したキャスターの経験から、LGBTについての特徴や偏見、学校での対応状況などをお話ししました。

受講者からは、「LGBTの存在について、歴史的、社会的、また文科系等の知識も合わせて知ることができた」「事例を学んだがら就職でかなり早く、具体的にどのような対応が必要なのか、イメージしやすくなった」との感想が寄せられました。



鳥取大学男女共同参画推進室便り



Pear Pair 通信 第25号

2018年8月5日

★この人に関く 金田由紀子さん 理学部応用化学科 講師

理学部応用化学科の金田由紀子さん。専門は応用化学で、理学部学生生活委員による指導教員に関する調査や実証に関わっています。英語・読書の楽しさの魅力を伝える活動や、地域住民が最後まで参加した体験活動でいっしょに楽しむための実証」について研究しています。調査や実証活動の結果、地域の先生方の理解を「研究支援員制度」を利用していただく。研究の機会を得て仕事ができることに日々感謝しています。

★休日の過ごし方：子どもと公園や川遊び、散歩、読書、読書会などを行っています。
★趣味：子ども達の伸びる姿を動画撮影に挑戦しています。
(子どもの成長が嬉しくて涙が出るそうです)



★お役立ち情報① 一英語論文セミナーを開催します！-

毎年多くの方に参加いただいている英語論文セミナーを今年も予定は順期にて開催します。

★先着順：平成30年9月3日(水) ★鳥取地区：平成30年9月3日(水)

今年も、水戸地区にて①筑前と②中津、鳥取地区にて①工学系と②化学・生物学系に分けて実施する予定です。詳細はあらためてご案内します。

★お役立ち情報② 一休憩室&相談室をご活用ください-

男女共同参画推進室内に【休憩室&相談室】を整えています。休憩室はいつでも、相談室は予約制です。個別相談もご活用いただけます。お気軽にご活用ください！

また研究活動や仕事、家庭や学校との両立をする上での不安や悩み等をご相談ください。無料です。利用時間は平日9時～15時です。とりりんサマースクール開催日(8/10～24)はホームページが不安定な場合があります。ご迷惑のある方は事前にご連絡ください。



●ご案内・ご相談など下記までお寄せください

〒690-8502
鳥取県鳥取市山道1丁目100
男女共同参画推進室(国際文化棟4階)
★鳥取県国際文化センター(鳥取県庁ビル)をご利用ください。

T E L: 0851-31-4100 または 内線2100
F A X: 0851-31-4197
Mail: info@pear.pair.u-bi.ac.jp
URL: <http://www.pear.pair.u-bi.ac.jp/>

言語・制作 英語 漢語
専任コーディネーター(英語) 藤村(キャリアコンサルタント)


 Bird University for Gender Equality
鳥取大学 男女共同参画推進室



鳥取大学男女共同参画推進室便り



Pear Pair 通信 第26号

2018年10月5日

●お知らせ 一〇〇の秋一

10月に入り、また涼やかなキャンパスが戻ってきました。今年の夏は気温が高い日が続きましたが、ようやく気温も落ち着き過ごしやすくなりました。秋と言えば、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、気候の秋は何をするのも良い季節ですが、皆さんは〇〇の秋に入っていますか。

さて、今回のこのひとに関く1は、農学部講師の大崎久美子さんを紹介します。

●活動報告① 一とりりんサマースクール2018を開催しました -

8月10日から24日まで(土日、13～15日を除く)8日間の日程で、岡山大学を会場とし、とりりんサマースクール2018を開催しました。これは、夏休みの長期休暇中の子ども達の保護者がいない保護者を対象に行ったもので、教職員の小学校1年生～6年生まで16名が参加しました。

今年度は、幼小・中学校教員を指導員に迎え、午前中は学習指導をしっかりと行い、午後は、科学のけんけん教室や体験プログラムなど、毎日異なる体験プログラムを行い、あっという間の8日間でした。子どもたちからは、夏休みだけでなく、冬休み、春休みも実施してほしいという声が多く聞かれました。

●活動報告② 一英語論文セミナーを開催しました-

9月18日に水戸地区、翌19日に鳥取地区において、講師に中山水子先生をお迎えし、論文執筆のための技術英語を学ぶ英語論文セミナーを開催しました。本年度、水戸地区では筑前・中津の難易度で分けたクラス、鳥取地区では工学系、生物・化学系の分野で分けたクラスで実施しました。

セミナーでは3つのC (Correct(正確)・Clear(明確)・Concise(簡潔))をポイントに文章を作成すること、動詞の強化のしかたや動詞をばかや「確定ではない」方法を「Nature」の掲載論文を参考に説明いただきました。

受講者からは、「ポイントがブレブレによくわかった」「自分のクセがわかった」「具体的なアドバイスを聞くことができた」との感想が寄せられました。



鳥取大学男女共同参画推進室便り



Pear Pair 通信 第26号

2018年10月5日

★この人に関く 大崎 久美子さん 農学部応用生物科学科 講師

専門は応用生物科学です。植物が病気になるメカニズムの解明や植物病害の防除法の開発に関する研究が主で、環境や地域貢献といった社会貢献活動を行っています。高校12年以上「研究支援員制度」を利用して研究、研究支援員からの研究補助を得て研究が進められ、大変感謝しています。一人や努力をしながら仕事をすることの不安や心配を乗り越え、恥を克服してこれたことへの感謝の気持ちを常に一言一句、仕事に打ち込んでいます。休日は読書の時間をしながら、読書の楽しさを分かち合っています。ママ友と子供会活動はありますが、家で本を読んだり映画を見たりと時が、一番の楽しさです。趣味は読書と旅行です。一人での仕事で、自分の成長を感じていくことができています。一人での仕事で、自分の成長を感じていくことができています。一人での仕事で、自分の成長を感じていくことができています。



★お役立ち情報 一DVDと書籍の貸し出しを行っています-

男女共同参画推進室では、ハラスメント、虐待・買収等に関するDVDや、育児、介護、ワークライフバランス等に関連する書籍の貸し出しを行っています。

活動報告②で紹介した、英語論文セミナーで講師をお願いしている中山水子先生の本も備えており、無料でお貸しします。鳥取県内各所まで。



●ご案内・ご相談など下記までお寄せください

〒690-8502
鳥取県鳥取市山道1丁目100
男女共同参画推進室(国際文化棟4階)
★鳥取県国際文化センター(鳥取県庁ビル)をご利用ください。

T E L: 0851-31-4100 または 内線2100
F A X: 0851-31-4197
Mail: info@pear.pair.u-bi.ac.jp
URL: <http://www.pear.pair.u-bi.ac.jp/>

言語・制作 英語 漢語
専任コーディネーター(英語) 藤村(キャリアコンサルタント)


 Bird University for Gender Equality
鳥取大学 男女共同参画推進室



Pear Pair 通信 第27号

2018年12月5日

●お知らせ — 入試時の一時的保育について —

平成27年度より実施してきました入試時の一時的保育につきまして、前日より利用者が少なく、昨年度は利用者がなかったことから、本年度的の実施を見送ることとなりました。本件に関してご意見やご要望がございましたらお寄せください。

本号では、「本日の室員」にて、8月より男女共同参画推進室の事務局を併用となった人事総務課の境之内ゆりさんをご紹介します。

この号の室員

- 2018年
- 2018年
- 2018年
- 2018年

今後の活動予定

- 1/ 受験期による個別相談
- 2/ 就職セミナー

●活動報告1 — 女子学生のための企業見学会2018<関西編>を開催 —

9月26～27日、1日2日の日程で、『女子学生のための企業見学会2018』を開催しました。この見学会は、女性研究者の活躍を促す大女子学生のキャリアアップ支援の一環として、キャリアセンターにご協力頂き、平成24年度から男女共同参画推進室が実施しています。今年度は小野重工業株式会社と富士通株式会社の2社を見学しました。

小野重工業では、研究開発を見学させていただき、女性研究者の活躍を伺いました。富士通株式会社では、ラボ合宿を体験、女性5日の方々と懇話会をさせていただきました。

参加した学生より「実際に働いておられる女性研究者の方々の話を聞いたり質問することで、自分の考えたい将来像がクリアと変わった」との声が寄せられました。女子学生のキャリア形成の一環として今後も実施していきたいと思っております。

●活動報告2 — 英語聴覚セミナーを開催 —

9月18日（水）に米子地区、翌19日（木）に鳥取地区において、聴覚に株式会社ユー・インテリッシュの中山美希先生をお迎えし、聴覚障害者のための聴覚補聴器を学ぶ英語聴覚セミナーを開催しました。本年度、米子地区では初編・中編の聴覚別クラス、鳥取地区では工学系、生物・化学系の分科別クラスで行いました。

中山先生によるセミナーは今年で3年目となりますが、聴覚補聴器の評判を聞いて受講される方も増えて、「わかりやすかった」「まあまあわかりやすかった」と受講生全員のがこたえであり、「面白いことを学べているのにとってもクリアだった。ポイントがブレずによく分かった。」との感想が寄せられました。

Pear Pair 通信 第27号

2018年12月5日

★本日の室員 — 境之内 ゆり (ほりのうち ゆり) —

男女共同参画推進室（総務・人事総務課）の事務局員としておられます境之内ゆりです。

これまで、就業支援や学生生活支援などを実施してきました。それらの経験を活かしながら、男女共同参画推進室の業務に取り組んでまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

所属科：総務、総務
担当を企業名：新しいもの（活躍も好きです）
得意な企業名：新しいもの、懐かしいもの

●お役立ち情報1 — 専門看護師による個別相談を実施します —

男女共同参画推進室内に専任の専門看護師が在籍し、不妊治療に関する個別相談を実施します。生殖学や生活不妊でお悩みの方、不妊症とは何かなど、お悩みの悩みについてお気軽にご相談ください。 必ず予約優先

■日時：1月に11時～15時に調整中
■実施日が休みの次期実施お知らせします。
■場所：男女共同参画推進室内研修室（地蔵学館4階）
■対象者：女子学生、他

●お役立ち情報2 — 介護セミナーを開催します —

仕事と介護を両立するために、介護に関する基礎知識や支援制度を学びましょう。キャリア学習より講師をお招きして、鳥取地区と米子地区にて以下のように開催いたします。詳細はあらためてご案内します。

鳥取地区：平成31年2月18日（水）
米子地区：平成31年2月19日（木）

ご質問・ご相談など下記までお寄せください

Yee-040
鳥取市山形町1丁目100
男女共同参画推進室（地蔵学館4階）
※地蔵学館東側奥側のエレベーターをご利用ください。

Tel: 0857-31-4789 または 内線2266
FAX: 0857-31-4787
Mail: ga@u-bi.ac.jp ga@u-bi.ac.jp
R: <http://www.u-bi.ac.jp/~ga/>

室長：藤井 美津 理事
専任コーディネーター：藤井 美津（キャリアコンサルタント）

Pear Pair 鳥取大学 男女共同参画推進室

Pear Pair 通信 第28号

2019年2月5日

●お知らせ — 徳岡延達 —

年が明けて1ヶ月、今年の予定は、梅と雪は十二支の巻頭。神さまのところに一番最初に到達したにも関わらず、そのままだと進んでいったため巻頭にならなかった。おかしな新年になっては目標を達成するほどの強運が欲しいものです。

さて、今回のこのひとに聞く1は、学生支援センター准教授の井上 菜穂さんをご紹介します。

この号の室員

- 2018年
- 2018年
- 2018年
- 2018年

今後の予定

- 2/18 企業セミナー（1部）
- 2/19 企業セミナー（2部）

●活動報告① — 看護師による個別相談を実施しました —

1月17日（水）に、鳥取県東部不妊専門相談センターの橋本万子看護師にお招きいただき、ホタテの悩みを気軽に相談できる「看護師による個別相談」を実施しました。

これは、生殖学、生活不妊に関する基礎知識（基礎検査や検査など）を教え、保健管理センターを受診したり、男女共同参画推進室内に就業に不安定な学生が抱えている一方で、学生にとって病院（産婦人科）は行きづらく、我慢していることが多いと思われ、

また、「不妊症」という言葉がよく聞かれるようになったものの、なぜ妊娠しないのかその原因と対処法について正しい知識を身につけたい学生が多い現状を踏まえて、専門家による個別相談を通じて女子学生の心とからだの悩みを解消するとともに、ライフプランニングに資する基礎知識を行うことを目的として実施したものです。

この号の室員

- 2018年
- 2018年
- 2018年
- 2018年

今後の予定

- 2/18 企業セミナー（1部）
- 2/19 企業セミナー（2部）

●活動報告② — 不妊治療に関するアンケートを実施中 2/8迄 —

不妊治療を行う方が年々増えている中で、男女共同参画推進室においても、仕事と不妊治療の両立について情報を寄せられています。

つきましては、男女共同参画推進室として、治療しながらも働き続けられる職場環境の実現をはかるため、不妊治療の実態把握を行うべく、不妊治療に関するアンケート（鳥取地区女性教職員を対象）を実施しております。

ご協力をお願いいたします。

Pear Pair 通信 第28号

2019年2月5日

★この人に聞く 井上 菜穂さん 学生支援センター准教授

私は学生支援センターの専任教員として、何らかの悩みをもった学生の相談や支援などにあたっています。専門は臨床心理学・行動科学、研究分野としては発達障害の本人支援や家庭支援の研究などをおこなっています。前期は病院の心療内科での研修、保育業、小児科のコンサルテーションなど、現場での臨床に携わって来た経歴があります。英、独2人の4人家庭ですが、我が家は夫婦ともに大学教員のため、研究支援制度を利用して休むことができるとも感謝しています。平日はずっと子どもと向き合える時間は少ないですが、限られた時間の中で短期集中型のコミュニケーションをとるよう心がけています。これからは自身の強みを得ながら、仕事と家庭を両立していきたいと思っています。

★お役立ち情報 — 介護セミナー～仕事と介護の両立のめいめい～を開催します —

仕事の介護とは、長期的に押さなければならぬので、介護保険で賄えるサービスは限られ、仕事と介護を両立するために、介護に関する基礎知識や支援制度について学びます。

講師：株式会社 ヨイ学館 鳥取支店 総務 英井 尚
内容：介護の現状、高齢者の増え、介護保険、仕事と両立するための制度 他

【鳥取キャンパス】
日時：2月18日（水）14:00～18:00
会場：広島学館1階 スペースC
【米子キャンパス】
日時：2月19日（木）17:00～18:30
会場：第2中央研修棟3階 会議室2

参加料等の詳細は、2月12日（水）まで以下男女共同参画推進室までメールにてお申込みください。

●お役立ち情報 — 介護セミナー～仕事と介護の両立のめいめい～を開催します —

ご質問・ご相談など下記までお寄せください

Yee-040
鳥取市山形町1丁目100
男女共同参画推進室（地蔵学館4階）
※地蔵学館東側奥側のエレベーターをご利用ください。

Tel: 0857-31-4789 または 内線2266
FAX: 0857-31-4787
Mail: ga@u-bi.ac.jp ga@u-bi.ac.jp
R: <http://www.u-bi.ac.jp/~ga/>

室長：藤井 美津 理事
専任コーディネーター：藤井 美津（キャリアコンサルタント）

Pear Pair 鳥取大学 男女共同参画推進室

平成30年度 男女共同参画推進室活動報告書

平成31年3月 発行

発行 鳥取大学男女共同参画推進室

〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101

TEL: 0857-31-5769 (内線2166)

E-mail: danjyo@adm.tottori-u.ac.jp

男女共同参画推進室ホームページ

<http://www.sankaku.tottori-u.ac.jp/>

